

占領南洋諸島産植物考察 (第一報)

教授 農學士 河 越 重 紀

緒 言

大正三年(西曆一九一四年)十二月文部省より新占領南洋諸島の學術的調査の爲第一回の旅行隊を派出せり、其時余は命を奉じて該諸島産の經濟植物調査の目的を以て此一行中の一員となりたり、即同月二十日横須賀港を解纜し、翌四年(西曆一九一五年)二月十三日、再同港に投錨するまでの間に左記の島嶼を巡歴したり。

東カロリン群島 (East Caroline Islands)

- (一) トルツク島 (Truk) 大正三年十二月二十八日より翌年一月五日まで

此島彙は廣大なる範圍に亘れる堡礁を以て圍まれたる大小數十の島嶼岩礁よりなり、其内余等の上陸せしは次の七島なり。

- (イ) ダブロン島 (Dublon) 我が守備隊本部所在地にして我が同胞之を「夏島」と稱す(大正三年

十二月二十八日及大正四年一月四日上陸)

- (ロ) モエン島 (Moen) 通稱「春島」(大正三年十二月二十九日及大正四年一月五日上陸)

- (ハ) ウドツト島 (Udot) 通稱「月曜島」(大正三年十二月三十日上陸)

- (ニ) フェファン島 (Fefan) 通稱「秋島」(同上月三十日上陸)

(ホ) ウモル島又はウマン島 (Umol or Uman) 通稱「冬島」(大正四年一月二日上陸)

(ヘ) トル島 (Tol) 通稱「水曜島」(同上月三日上陸)

(ト) エテン島 (Eten) 通稱「竹島」(同上月四日上陸)

(ニ) ポナペ島 (Ponape) 同上月八日上陸 一泊翌九日出帆
同上月二十一日上陸 一泊翌二十二日出帆

余等の上陸せしは島の北部にして視察せしは舊獨逸政廳支配地 (Regierungsbesitz) 一帯シヨカージ (Dschokadschi) の一部及び我國守備隊にて通稱せる「筑波川」上流及「鞍馬山」方面なり。

(三) クサイ島 (Kusaie) (同上月十一日上陸)

余等の上陸せしは同島の東部に在るレロ (Lelo) と稱する小嶼なり、此所はクサイ島の内に於て最人口多く守備隊所在地なり。

マーシャル群島 (Marshal Islands)

(四) シヤルート島 (Jaluit) (ヤルートと發音するは非なり、獨逸人すらヤルートと讀まず、或る

獨逸の地圖には態々 Dshaluit と書き添へて其發音法を示せる程なり)。

此島は大なる環礁にして即ち其所々切れて十數個の長細き島となり、是れが環狀に配列せるなり、余等の上陸せしは次の二島なり。

(イ) シヤポール島 (Jabor) 有名なるシヤルート會社の所在地にして我守備隊も此島に在り (大正四年一月十三日及十五日上陸)

(ロ) エニール島 (Eniabor) (同上月十四日上陸)

西カロリン群島 (West Caroline Islands)

(五) アンガウル島 (Angaur) (同上月三十一日上陸)

(六) パラウ島 (Palau) (同年二月一日着マラカル島に二泊其間
左記の諸島嶼を視察し同月三日出帆)

此島彙は凡そ五個の島と其他多數の小嶼よりなる、余等の調査せしは次の島嶼なり

(イ) マラカル島 (Malakal)

(ロ) コロール島 (Koror)

(ハ) ゴモテス島 (Gonotes)

其他以上の島々の間に散在せる數多の小嶼の間を小舟に楫し其岸に生ずる植物を
觀察採集したり。

(七) ヤップ島 (Yap) (同上月五日上陸)

マリアナ群島 (Mariana Islands)

(八) サイパン島 (Saipan) (同上月八日上陸)

以上の島嶼にては何時も上陸の時間短かく充分の調査を行ふ違なかりしが事情の許す限り
成る可く廣く島内を跋涉し、植物は栽培、自生の論なく蕞爾たる雜草と雖も之を見落さざらん
事に力め、一々之を觀察記帳し且つ未見、未採或は檢別上疑ひあるもの等は悉く之を採集した
り即此間余が遭遇せし植物は羊齒類 (PTERIDOPHYTA) 以上にて約百五〇科、六百五十餘種あり
斯くて歸校匆匆右調査の報告を促され、止むなく、各島に別ちて其植物目錄を綴り、著しき効用

及び性狀あるものには其要項を記入し、僅に二句餘の内に提出したり、是れ唯旅中に觀察筆記せし備忘録と、歸校後急ぎて整理せし採集標本とに依りて書き綴りしものにして、元より杜撰の誹、免れ難きものなりき。其後教務の餘暇を割き携へ歸りし標本を少し宛精査するに従ひ誤謬の點も少からず發見せられ、又不明なりしものも續々判明し來れるを以て、追々に前の目錄を訂正し詳細の記事を綴り置かんと欲する内、圖らずも曩に出せし報告書は翌大正五年三月文部省にて他の視察者の報告書と共に印刷配布せらるゝに至る、慚羞之に過ぐるなく、心益々右の補正を欲すること急となれり、然れども爾來之に従事する暇少く、又斯かる事業に必要な参考書類に乏しきを以て到底其完全は望み難きを以て、今手元に在る参考書類に依るも其種名判定し難きもの、或は當否疑はしきもの等は記載を認め識者諸賢の高教を仰がん事を期し尙種名判明せるものにては我國に取りて珍らしく且つ著名ならざるものは特に其記載を認めたり、斯くて Engler 氏の分類の順により漸次書き進みて RUTACEAE まで來りしとき、其記載の不充分なりしを感じ、爾後は成る可く詳細に記述することなし、續て SIMARBAEAE より初めて COMPOSITAE まで終りし後更に始めより RUTACEAE までを書き改めんとすの計畫にて今遅々として進める所なり、而して此度本校學術報告第三號の出版に當り未成稿なれども、先づ第一報として其一部分即 SIMARBAEAE より SAPOTACEAE に至る三十五科、百三十九種を茲に掲げ、漸次續きて前後の各科をも書き綴らんと欲す、然れども何分參考すべき材料に乏しきを以て勞多くして効少く前に出せし報告書と五十歩百歩の嘲を免れざらんも、唯是れ余が占領南洋植物を考察せし次第を記載せるものなり。

が占領南洋植物を考察せし次第を記載せるのみ。

尙茲に特記すべきは我が校第四回農學得業士河野丑之助氏は占領諸島の内のSaiPan島の守備隊技手として同島に赴任せしより大正五年より六年に亙り同島にて採集せる植物の腊葉を三回母校に寄贈せられたり、其内余が巡遊中全く見ざりしもの、又他の島にては見しがSaiPanにては見ざりしもの等あり、是等は余の調査を補ふ所の効大なるものなれば此度は河野氏の採集物も加へて記載することとせり、各種の終りに特に河野氏採集の事を記せざるものは凡て余の觀察採集に係るものなり、茲に河野得業士の熱誠なる好意を深謝し爾後續々材料を供給して余の事業を援助せられんことを希ふ。

本調査に當り參考竝に引用に供したる主なる圖書及び本文に使用せる其略符次表の如し。

略符 書名

BAIL. S. C. H. BAILEY, I. H. The Standard Cyclopedia of Horticulture.

DN. F. K. H. DUNN, S. T. & TUTCHE, W. J. Flora of Kwangtung and Hongkong. (Bulletin of miscellaneons Information, Additional Series X, Royal Botanic Garden, Kew.)

ENGLER, A. & PRANTL, K. Die natürlichen Pflanzenfamilien.

HAY. G. I. F. F. 理學博士早田文藏氏、臺灣植物總目錄(臺灣植物圖譜同資料第六卷附錄)

{HAYATA, B. (General Index to the Flora of Formosa, (Supplement to Icones Plantarum Formosanarum VI.)}

HOOK. F. B. I. HOOK, J. D. Flora of British India.

KAN. 林學士金平亮三氏、南洋占領諸島の森林植物(追加) (大日本山林會報第四

占領南洋諸島産植物考察(第一報)

○一號大正五年四月十五日發行 (April, 15th, 1916)

KAW. S.

本著者新占領南洋諸島植物調查旅行土産話(鹿兒島高等農林學校校友會報第四號大正四年九月二十五日發行 (Sept. 25th, 1915))

KAW. M.

本著者占領南洋諸島產藥用植物誌(理學界自十四卷十一號至十五卷一號大正六年五月六月七月發行 (May, June, July, 1917))

KOIZ. P. N. M.

理學博士小泉源一氏(ミクロネシア産新植物)其一及其二(植物學雜誌第三十卷第三六〇號大正五年十二月發行)及卷第三十一卷第三六八號大正六年八月發行)) (KOIZUMI, G. *Plantae Novae Micronesiae I-II* (The Botanical Magazine, Tokyo, Vol. XXX. No. 360, Dec. 1916 & Vol. XXXI. No. 368, Aug. 1917))

KOIZ. V. J.

理學博士小泉源一氏(ヤルト島植物地理略)植物學雜誌第二十九卷第三四六號(大正四年十月發行)) (KOIZUMI, G. *The Vegetation of Jaluit Island*, (The Botanical Magazine, Tokyo, Vol. XXIX. No. 346, Oct. 1915.))

MACM T. G.

MACMILLAN, H. F. *A Handbook of Tropical Gardening and Planting.*

MER. G.

MERRILL, E. D. *An Enumeration of the Plants of Guam*, (The Philippine Journal of Science,

C. Botany, Vol. IX. No. 1-2, 1914.

MER. M.

MERRILL, E. D. *A Flora of Manila*, 1912.

TR. F. C.

TRIMEN, H. *A Hand-Book to the Flora of Ceylon.*

WINK. B. H.

WINKLER, H. *Botanisches Handbuch für Pflanzer, Kolonialbeamte, Tropenkaufleute und*

Forschungsreise, 1912.

以上の他に余の巡歴前後に我が恩師理學博士白井光太郎先生の貸與し給ひし

SADBECK, R. Die Kulturgewächse der deutschen Kolonien und ihre Erzeugnisse, Jena, 1899.

又余等と同行の農學士渡瀬次郎氏の携帶せられし

SAFORD, W. E. The Useful Plants of the Island of Guam, (Contributions from the United States National Herbarium, Vol. IX, 1905.)

を同氏の好意に依り船中にて借覽するを得たること尙又同行の理學博士小泉源一氏の好意により同氏が旅行前抄記して携帶せられしミクロネシア諸島植物に關する文獻一覽及び是れに表はれたる植物名の手帳を借覽し且つ同氏の快諾を得て之を船中にて手寫するを得たること以上の三件は本調査上直接又は間接に好個の參考となりし所少からず茲に特記し以上記の諸彦に深厚なる感謝の誠意を表す。

本報には親しく余の該諸島に於て觀察採集せし植物及び河野得業士より贈られたる標本のみに就き記述し文獻等に依りて其存在を知ると雖も余の自ら見ざりしものは故更に之を載せず。

SIMARUBACEAE

にがき科

Quassia amara, L.; Egl. N, P. Teil. III, Abt. IV, 215, 216;

MACM. T. G. 323; WINK. B. H. 221; KAW. M. かつしあぼく

Ponape 島の舊獨逸政廳附屬有用植物試栽園内に唯一本植ゑらる。

MELIACEAE.

せんだん科

Aglaia (Sect. *Hearnia*, F. MUELL.) sp. りうがんもどき(新稱)

灌木或は小喬木新芽、幼莖、葉柄、花序、花、果實等は褐色の細微なる鱗毛を以て掩はる、葉は互生奇數羽狀複葉、全長 34 — 63 c.m. 小葉は七枚、上部の二對は對生し下部の一對は互生或は殆對生に近し、小葉は橢圓形或は倒卵形、葉頂は銳尖し、葉脚は圓く、左右不等形をなす、時としては稍心臟形に入り込む、葉邊には僅に波狀の凸凹あり、長さ 13 — 20 c.m. 幅 6 — 11 c.m. 稍革質にして平滑なり然れども裏面に於ては中肋及側脈のみ褐色の鱗毛を被る、小葉柄の長さ 5 — 13 m.m. なり、花梗は腋生、屢全葉より長し、無枝或は有枝なり、花序には花の着生粗なり、小花梗は短し、花は小にして徑約 2 — 3 m.m. 萼片六 — 八個、覆瓦狀に配列す、外方のものは内方のものに比して小なり、圓形にして内面凹む、短毛を生ず、花瓣は五 — 六個、覆瓦形に配列す、圓形にして厚く内面凹む、淡黄色を呈す。雄蕊管 (Staminal tube) は短く缺刻なく縁邊は黒紫色を呈す、葯は縁邊の内壁に附着せり雌蕊は甚短く柱頭は盤狀を成す。果實は若き時は例卵形にして頂端圓く、基脚狹まれども、熟すれば楕圓形乃至殆球形となる、長さ 20 m.m. 徑 17 m.m. 全面に褐色の鱗毛を被る、二室より成り、各室に一個の種子あり。種子は楕圓形にして外方は圓く、内方は扁平なり、長さ 12 — 14 m.m. 幅 9 m.m. 厚さ 6 m.m. 淡暗褐色にして全面に皺あり。

余は Ponape 及び Angaur の兩島の森林に於て花及び未熟の果實を着けたるものを得たり又河野丑之助氏は Saipan 島にて大正六年五月二日熟果を着けたるものを採集せり、惟ふに是れ *A. sumponensis*, A. GRAY: KAN. 56. ならんか。●

これは A. sumponensis, A. GRAY, KAN. 56. なるもの。

Melia Azedarach, L.; Ess. N. P. Teil. III. Abt. IV. 287, 288; BOOK. F. S. I. 102. 103.

I. 244; DN. F. K. H. 58; MER. G. 100; MER. M. 276; MACM. T. G. 583; WINK. B. H. 175; HAY. G. I.

F. F. 13; KAW. M. せんだん

Trunk, Ponape 及び Palau の諸島に於て風致樹として栽培せらる。

Xylocarpus obovatus, A. JUSS.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. IV. 278, 280; KAW.; S.; KAW. M.

おほかたしのき(新稱)

Trunk 島彙中の諸島嶼に於て所謂ひるぎ林中に生ず、種子より油脂を採るべく、樹皮より單仁を得べく、材は甚堅緻なり、望ある有用植物なり。

POLYGALACEAE ひめはぎ科

Polygala sp. 1. おはひめはぎ(新稱)

草本、一年生?(高さ10—18 c.m. 莖は殆枝なく直立し或は多少分枝して低く擴がる。葉は互生無毛、楕圓形、全縁頂端圓く微小なる突起あり(nacronate)葉脚は鈍圓漸次狹まる、長さ8—17 m.m. 幅3—6 m.m. 葉脈不明瞭、葉柄甚短く1 m.m. を超えず。花は小さく腋生せる花梗上に叢生す、花梗の長さ5—10 m.m. 萼片は五個、二輪に配列す、宿存性、外輪の三個は小にして三角形、内輪の二個は大にして葉質、半圓形、頂端尖り長さ3½ m.m. 毛を生ず、顯著なる三本の脈あり。花瓣五個、其中二個は小にして耳殻狀、他の一個は大にして龍骨狀、頂端の附屬物は暗紫色にして房狀をなす。雄蕊八個、花絲は管狀に癒合す、葯は楕圓形。花柱は長さ1½ m.m. 柱頭は唇狀、蒴は圓形、左右より扁壓せらる、毛を生ず、種子は卵形、長さ1½ m.m. 黒褐色薄く毛を生ず、附屬突起物(Stophiote)は二本の附屬絲

を有す。

Ponape 島及び Palau 島の原野の低濕なる所に生ず、但し Ponape 産のものは殆無枝にして比較的丈高く Palau 産のものは枝ありて丈低し。

Salomonica cantoniensis, LOUR.; Fcl. N. P. Teil. III. Abl. IV. 342; Hook. F. B. I. Vol. I. 206; Dn. F. K. H. 36.

まるばのひなのかんざし(新稱)

一年生草本、高さ平均 10 c.m. 餘、莖は株際より分枝して叢狀を爲し、又其分れし莖にも多少の枝あり、莖は全體に亘りて兩側に綠色、膜狀の緒を有す、莖も葉も無毛なり。葉は互生し倒心臟形乃至廣卵形にして葉頂は鈍狹、葉脚は圓く或は心臟形に入り込み、少しく葉柄に移り續く、葉邊は殆全縁、葉脈は葉脚より五分し、其内中央及び其左右の一對は明瞭なり、下方の葉は長さ 14—18 m.m. 幅 12 m.m. にして上方の葉は長さ 8 c.m. を超えざるものあり、葉柄は短く長さ 2 m.m. に過ぎず。花序は穗狀にして各の莖及び枝に頂生す、穗の長さ約 4—5 c.m. に至り、多數の花果を着生す。花は小にして長さ 2 m.m. 無柄なり。各花の下に一枚の苞あり、苞は披針狀、頂端銳尖し、中央に一條の脈あり、微小にして長さ 3 m.m. に過ぎず。萼は深く五裂し各裂片は披針狀を呈し、先端銳尖す、各中央に一條の脈あり、内方に在る二裂片は他の三片に比して稍幅廣し、淡綠色を呈し、宿存性なり。花冠は淡紅紫色を呈し、三枚の花弁より成る、其内兩側の二瓣は其端圓く、内方に於て分離し、外方に於て合着し、相疊まりて雌藥を抱く、其縫目の上端に一個の雄藥着生せり、残りの一瓣は其端圓く、其中央に凹み (notch) あり、外方より他の二瓣に接し、下方は之れと癒合し、上方

は離れて中央より疊まり雄藥を包む。雄藥は一個花絲は膜狀にして下方に向ひて漸次廣がり、遂に兩側の瓣の合着部に連なる。藥は四胞にして花絲の末端に着生し、二個づつ左右より花

絲と共に相疊まり、雌藥の柱頭及花柱の上部を挟む。子房は花冠の底部に位し内方に傾斜せり、二胞よりなり、腎臟形にして左右より扁壓せられし形なり、其稜縁に齒狀突起あり。花柱は長さ約1.5 m.m. 子房の頂上中央より出づるも、子房傾斜せるを以て中心を外れて出づるが如き觀あり、基部は細くして上方に於て稍廣くなれり、柱頭は小にして少しく房狀を爲し、藥の間に挟まる。果實は腎臟形にして左右より扁壓せられ、縁は鱗狀に薄くなり、二重に犬齒狀に刺を生ず、幅は約2 m.m. 高さ約1 m.m. なり、熟すれば乾燥し、淡黄色を呈す、二胞にして各胞に一個の種子あり、種子は扁卵形にして恰も銀杏の如く稜あり、長さ約 $\frac{3}{4}$ m.m. 眞黑色を呈す。

Palau 島彙中 Korol 島の草原に生ず、一見我が内地のひなのきんちやく (Polygala Tatarinowii, REBEL.) に似たるも、花實を検するに及びてひなのきんちやく (Salomonina) のものなるを知る。

EUPHORBACEAE とうだいぐさ科

Acalypha fallax, M. ARG.; Hook F. B. I. Vol. I. 416; Dn. F. K. H. 239; Trm. F. O. Vol. IV.

59.

かさなしえのきぐさ(新稱)

一年生草本、以下余の採集したる標本に就きて記載すれば、高さ平均26 c.m. 莖は株際より多數分枝す、其分莖は大なる角度を以て主莖より分出すれども、着點より遠からざる所より漸次主莖に平行して直立し、各莖は多少分枝す、莖及び莖柄は短毛を被り、其熟成せる部分には薄きも、若き部分には密なり。葉は卵形、葉頂漸尖し、葉底は圓く或は殆截形なり、葉邊には葉底を除く

外には鋸齒あり、兩面共に粗毛を生ず、葉の大きさには不同あれども普通完成せるものは長さ5 c.m. 幅3 c.m. なり、葉脈は葉脚より五本に分れ中央の三本は明瞭にして各明かに支脈を分つ、葉柄は稍々長く3-4 c.m. に至る。花序は穗状にして各莖枝の上方の葉脈より一-二本宛抽出す花軸は最長さは3 c.m. なり、其上端には雄花のみ密に着生せり、是れに續きて下方には雌花のみ比較的粗に着生す。苞は腎臟形にして完熟せるものは幅4 m.m. 餘、高さ25 m.m. なり、縁邊は平均十二個の犬齒状の裂片に分る、其外面には毛密生す、宿存性にして花後多少發育す。苞の内には常に唯一個の雌藥包まる、子房は楕圓形にして長さ約1 m.m. 全面に毛を被る、三胞より成る、花柱は各胞より一本宛出で一度三本相接し、又分れ其分れ目より少し上にて各三本に分れ、紫褐色の房状を爲して苞より露出せり。果實は熟するに従ひ苞より上に其頂部を顯はす、徑1.8 m.m. 高さ1.5 m.m. 略々球形にして三つの胞間に深き溝ありて三個の球を密集せしめし觀あり、全面灰色の毛を生ず、果頂には花柱宿殘せり、熟すれば胞間より開裂す、各胞に一個の種子あり、種子は卵形にして一端尖り、平滑にして淡褐色を呈す、長さ1.2 m.m. なり。

Angaur 島の或る燐礦採掘地に接近せる草原中に生ず。

Acalypha indica, L.; Hook. F. B. I. Vol. V. 416; DN. F. K. H. 239; FR. F. C. Vol. IV. 58; MER. F. M. 292; MER. F. G. 100; HAY. G. I. F. F. 65; EGL. N. P. Teil. III. Abt. V. 61; MAOK. T. G. 594, 598.

きたちあみがら (HAY. G. I. F. F.)

河野丑之助氏 *Saipan* 島に於て大正六年五月十五日採集す。此種は一見前種に酷似せるも雌花の苞が比較的大にして雌花及び果實は決して苞の外に顯れざること、及び苞の内

には三-五個の雌花を有すること等を以て明に區別し得、此品は我が臺灣にも産し、熱帯

も雌花の苞が比較的大にして雌花及び果實は決して苞の外に顯れざること及び苞の内

には三―五個の雌花を有すること等を以て明に區別し得、此品は我が臺灣にも産し、熱帯亞細亞には極めて普通なる雑草にして Ceylon にては之を驅蟲並に驅風劑として内服し、又傷創に外用し、賤民は其葉を採りて蔬菜とす。

Acalypha Wilkesiana, M. ARG.; BARR. S. C. H. Vol. I. 191; MACOM. T. G. 325. 英名 Copper-leaf.

河野丑之助氏 Saipan 島に於て大正六年四月二十日採集、葉に赤紫等の斑あるものなれば觀賞用の栽培品なるべし。

Acalypha sp.

灌木、高さ 2―3 m. 新芽、幼莖、葉柄には微細なる毛を密生す、葉は卵形、先端尖り、葉脚丸く僅に心臟狀に入り込む、葉邊鋸齒あり、長さ 9―18 c.m. 幅 5―12 c.m. 葉柄 3―12 c.m. 花序は腋生、雌雄花は別々の花穂に生じ、或は雄花穂の基部に雌花を混生することあり、花穂は何れも葉の全長より短く、半ばよりは長し、雌花の苞は長さ 5 m.m. 幅 7 m.m. 内に各一花を抱く。

Angaur 島の森林に自生す。

Acalypha, sp. おはばのえのきぐさ(新稱)

半灌木、高さ 1―2 m. 新芽、幼莖、葉柄に黄色の毛を密生す、毛は前種のものより遙に長く著し。葉は廣卵形、葉頂少しく尖る、葉脚は丸し、葉邊に鋸齒あり、長さ 10―20 c.m. 幅 7½―17 c.m. 葉柄は長けれども葉身より短し、即ち 6―16 c.m. なり。花序は腋生、雌雄花穂を別にす、長さ概して葉身の半ばを超えず、雌花の苞は小さく、長さ 4 m.m. 幅 5 m.m. に過ぎず、内に二乃至三個の花を抱く。

Truk 島彙中の Driblon (夏島) Udot (日曜島) Befan (秋島) Umol (冬島) Tol (水曜島) 及び Eten (竹島) 即ち同島彙中余等の廻りし殆凡ての島嶼竝に Ponape 島に於て林野に自生せり、然れども其産地何れも人家より遠からざる所なるを以て觀れば或は A. Wilkesiana, M. Arb. 等の如き觀賞用栽培種が遁生、惡變せるならんか。

Cleidion sp ?

灌木、無毛、葉互生、質稍厚く軟かなり、長卵形或は橢圓形葉頂尖り、先端は少しく鈍なり、葉脚丸く葉邊には甚淺く且つ粗なる鋸齒あり、屢々左右不等形を爲す、長さ 10 — 17½ c.m. 幅 4½ — 7 c.m. なり、葉柄の長さ 15 — 33 m.m. 葉身と接する所に多肉なる關節 (das Gelenk) あり、之れによりて葉身と葉柄とは或る角度をなす。花序は腋生或は殆頂生す、後の場合は枝の最上の葉の腋に生ずるものにして此の花序の側に頂芽あれども容易に伸長せず、故に實際上頂生の觀あり、穗狀花序にして長さ 2½ — 4 c.m. 各節に鱗片狀の苞あり、其腋に數個の花蕾叢生す、然れども發育を遂ぐるは其内の一或は二花に過ぎず。雄花は徑約 2 m.m. 萼片三枚、卵形、頂端鈍尖、全縁、外面に短毛を生ず、長さ 2 m.m. 幅 1½ m.m. 雄藥は約五拾本あり、花絲は各分離し花の中央に房 (filix) をなして叢生す、葯は黃色、四胞よりなり、胞は横裂す、葯に接する部分に於て少しく溢る、葯隔 (connective) は葯の頂上に少しく突出す、雌花を得ず、恐らく雌雄異株なるべし。

Palau 島彙中 Gomotes 島の海に臨める鬱林中に生ず。

Codiaeum variegatum, (L.) Bl. Hort. F. B. I. Vol. V. 29. M. F. N. 291. Max. G. 301. H. W. G. I. P.

F. 65; Kaw. M.; Kaw. S. var. pictum, M. Arg.; Bal. S. O. H. Vol. II. 816.

へんえうぼく又くるとんのき

余等の巡遊せし各島にて此植物を見ざることなかりき、但し Kusaie の Ielo 島にては之を見ざりき、是れ或は余が見落したりしなるべし、品種多數あり、何れも島民或は居住外國人の住屋の附近或は墓場等に栽えられ、又は Palau の Oroi 島にては村落の道傍に生籬として植えらる、又 Angaur 島にては鬱林中に自生の状態を爲して生ず。

Croton sp.? しひのきはのしらき(新稱)

灌木或は小喬木、葉は互生、橢圓形或は卵形、葉端尖り、葉脚圓し、葉邊全縁、長さ 11 c.m. 幅 5 c.m. を普通とすれども、大なる者は長さ 20 c.m. 幅 8 c.m. に至る者あり、表面は深綠色にして光澤あり、裏面は褐色にして絹絲光ある極めて細微なる毛を密生す、即ち葉の裏の状態は恰も *Stylosanthes ferruginum*, Hook et Arn. (あかてつ) に於けるが如し、葉質は革質にして稍堅きも餘り厚からず、葉柄は通常 6—8 m.m. なるが大なる葉に於ては 12 m.m. に至る、外面粗にして褐毛を被る、新芽にも亦褐毛を生ず。蒴果は枝の中部或は下部に於て既に落脱せし葉の腋に一乃至三個宛着生す、扁圓にして上より見れば角の圓き三角形或は方形をなし、徑 12—15 m.m. 高さ 9 m.m. なり、三室或は四室よりなり、各室に各一個の種子あり、心皮は熟すれば暗褐色を呈し、表面に網狀の脈及皮自著しく隆起す、蒴開裂して心皮脱落せし跡には三方或は四方に翅狀突起を有する心柱殘る。蒴の下には長さ約 2—3 m.m. の雌藥柄 (*Gynophora*) と五枚の宿存生の萼片とあり、花を得ず。

Palau 島嶼 Gomotes 島の前の小嶼の海に臨める崖上に生ず。

Euphorbia Atoto, FORST.; HOOK. F. B. I. Vol. V. 248; DN. F. K. H. 232; HAY. G. I. F. F. 66; MER. G. 101; Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 105. はまたらひあ

Truk, Angaur 及び Jaluit の諸島の海濱に生ず

Euphorbia heterophylla. L.; MER. F. M. 282; MACG. T. G. 319; HAY. G. I. F. F. 66; MER. G. 101; Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 107. しやらんとやらねん

Ponape, Jaluit 及び Saipan の諸島に於て觀賞の爲栽培せらる

Euphorbia pilulifera, L. *E. hirta*, L.; HOOK. F. B. I. Vol. V. 250; DN. F. K. H. 232; MER. F. M. 283; KOZ. V. J. 250; MER. G. 101. Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 104. しまにしかねん(たけねん)にしかねん(HAY. G. I. F. F.)

余等の巡遊せし凡ての島嶼に之を生ず。

Euphorbia thymifolia, BURM.; HOOK. F. B. I. Vol. V. 252; MER. M. 283; DN. F. K. H. 232; KOZ. V. J. 251; HAY. G. I. F. F. 66; Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 105; MER. G. 101. うらなもてにしかねん

Saipan 島を除く凡ての島に於て予は之を見たり。

Euphorbia sp. ひろはのみやこしまにしきさう(新稱)
E. serrulata, REINW. (みやこしまにしきさう)に近似すれども其れより葉稍廣く、鋸齒更に細

く葉裏に絨毛あるを異れりとす。

Palau の Koror 島の草原に生ず。

Euphorbia sp. **けみやこしまにしきさう(新稱)**

前種に近似すれども葉更に廣く大しにて葉の両面及莖に絨毛を密生す。 *E. serrata*, REINW.

var. *pubescens*, KOIZ., SHIB. F. 168. は即ち是れなるべし。

Yap 島の路傍の草原に生ず。

Euphorbia (sect. *Anisophyllum*, HAW. subsect. *Chamaesyceae*, BORSS.) sp. **さらさにしきさう(新稱)**

一年生草本、莖纖細、偃地性、葉對生、卵形、又は橢圓形、葉頂鈍圓、葉脚は左右不等形をなし、少しく心臟形、入り込む、葉縁には不明瞭に細微なる小數の鋸齒あり、長さ 4 — 6½ m.m. 幅 2½ — 2¾ m.m. 葉は平滑綠色にして蒼白色の網狀斑紋あり、葉柄短し。葉腋より小葉を密生せる小枝を出し、其葉腋より柄を有する總苞を生ず、總苞は微小、平滑、長さ 1 m.m. 幅 ⅓ — ⅔ m.m. 密槽は四個あり、扁片(limb)を缺く、雌藥の柱頭は短く、六本に分る。蒴も小く、長さ 1 m.m. 徑 ⅓ m.m. に過ぎず、平滑なれども稜角のみには毛あり。種子は褐色にして不明瞭なる横皺あり、種皮は濕へば粘氣を生ず。是れ *E. prostrata*, AIR.; MER. F. M. 283. ならんか。

Truk 島及び Jaluit 島の肥沃なる地上に生ず。

Euphorbia (sect. *Euphorbium*, BENTH. subsect. *Diacanthium*, BENTH.) sp.

E. antiquorum, L. (ふくろぎ)の如く幹枝多肉にして枝端に多肉なる橢圓形の葉叢生す、花果を見ず。是れ恐らく *E. trigona*, HAW.; MER. F. M. 281; EGL. N. P. Teil. III. Abt. V. 108. なるべし。

Jaluit 島のシャルト會社々員(獨逸人)の庭に觀賞の爲栽植せらる。

Excoecaria Agallocha, L.; Hook. F. B. I. Vol. V. 472; Dn. F. K. H. 241; Tr. F. C. Vol. IV. 77; Mer.

G. 101; Ner. M. 298; Macm. T. G. 579; Wink. B. H. 118; Hay. G. I. F. F. 66; Fgl. N. P. Teil. III.

Abt. V. 95.

しましらす

Truk 島叢の Tol 島及び Palau 島叢の Gomotes 島の海岸に生ず。

Glochidion sp. **かろりんかんのき**(新稱)

灌木乃至大灌木、莖葉無毛、葉互生、長卵形乃至披針形、左右不等形、葉頂漸尖、葉脚斜にして半面は丸く、半面は漸狹す、葉邊長さ 6—15 c.m. 幅 2½—7 c.m. 葉柄の長さ 3—4 m.m. 花は腋生、一ヶ所より二乃至四花を生ず、微小にして徑 3 m.m. 花梗纖細にして長さ 5—6 m.m. なり。雄花に於て花被は三枚宛二輪に生ず、卵圓形にして内花被は外花被に比して小なれども肉厚し、雄藥は三本にして花の中心に集合す、藥隔 (Connective) は藥より上に抽出す。雌花は雄花に比し花梗稍強直、花被は内外各三個、外花被は略三角形、内花被は鐘形をなす、外花被は内花被より大にして且つ厚し。蒴は扁平、徑 7 m.m. 六室、各室に赤き假種皮 (Arillus) を被れる種子を有す。

Truk 島叢中の各島嶼の山腹及山麓に於ける代表的植物の一なり、又 Ponape 島にも産す。

Glochidion sp.

灌木、莖及葉裏に短き灰色の毛を密生す。葉互生、卵形或は廣橢圓形、葉頂丸味あり、少しく尖る、葉脚は丸く、左右少しく不等形、僅に心臟形に入り込む、葉邊全縁なり、長さ 6½—10½ m. 幅

3 1/2 - 5 m.m. 表面は中肋を除く外は殆平滑にして光澤あり。花は葉腋より二三個生ず、花梗短く長さ 4 m.m. なり。果實は扁球形にして七室よりなり、熟すれば赤褐色となる、徑 13 m.m. 高さ約 7 m.m. なり。

Frnk 島及び Ponape 島の森林に生ず。

Hevea brasiliensis, M. ARG.; EGT. N. P. Teil. III. Abt. V. 76; MER. F. M. 293; MACM. T. G. 487, 576;

WINK. B. H. 140; HAY. G. I. F. F. 67; KAW. S.; KAW. M.

ぼらごむのき

Ponape 島の舊獨逸政廳の有用植物試栽圃中に唯一本若木の植ゑられたるを見たり

Jatropha Curcas, L.; Hook. F. B. I. Vol. V. 283; TR. E. C. Vol. IV. 46; DN. F. K. H. 237; MER. M. 289; MER. G. 102; MACM. T. G. 118, 119, 541; WINK. B. H. 147; HAY. G. I. F. F. 67; KAW. M.; EGT.

N. P. Teil. III. Abt. V. 74, 75.

しまあぶらぎり

Ponape, Yap 及び Saipan の諸島にて島民の部落に一一二本植ゑられたるを見たり。

Jatropha multifida, L.; Hook. F. B. I. Vol. V. 383; MER. G. 102; MER. M. 289; WINK. B. H. 148; EGT.

N. P. Teil. III. Abt. V. 75. 英名 Coral Bush.

Truk 島彙中 Dublon (夏島) の舊獨逸政廳の庭に觀賞の爲栽植せらる。

Macaranga (sect. *Eumacaranga*), M. ARG. sp.; KAW. M.

小喬木、高さ 3 - 4 m. 幹は直上し、枝は四方に擴がる、幹、枝共に纖弱なり、芽、若き枝、葉柄、花軸等には灰色の微毛密生す、葉は互生、楕狀葉 (petate leaf) にして廣卵形或は卵形、中程に於て幅最廣く漸次上方に狹まり先端鋭尖し屢々尾の如く延ぶる事あり、時としては上方は淺

く三つの裂片に分るゝことあり、中程以下は圓し、葉縁には幅の最廣き部分より上に極めて淺き鋸齒ありて下方には鋸齒なし、長さ14—20 c.m. 幅10—18 c.m. 葉柄の着點は葉底より葉身の全長の平均 $\frac{1}{3}$ の所に在り、此着點より八本の葉脈射出せり、中肋よりは左右各の八本の支脈を互生し、之れに隣れる一對の脈よりは各外方に向ひて八—九本の支脈を出す、各支脈の間に連互せる第二次の支脈は葉柄の着點を中心として同心圓を描けり、下方に向へる三本の脈の中程に褐色橢圓形の蜜腺あり、但し個體によりては蜜腺を缺けるものあり、脈は葉の裏面に隆起せり、葉質稍々薄く、兩面共に微毛を生じ、羅紗の如き觸感を與ふ、葉柄は長く11—19 c.m. なり。托葉は線狀乃至披針狀にして先端銳尖し、全縁なり、中央に一線の脈あり、兩面に微毛を密生す。花は雌雄異株也。雄本に在りては花軸は枝の上部に腋生し、纖細にして長さ7—18 c.m. なり、上方には數本乃至十數本の枝を分ち、其枝の上に花叢粗に着生す、各花叢には一個の苞あり、苞は長さ2—3 m.m. にして厚く毛を被り、基部は廣がりて花叢を抱き、中程は狭く、上方は橢圓形或は圓形に擴がり、其内面に縁に沿ひて章魚の足の吸盤の如き蜜腺二—六個あり、苞の腋に殆無柄或は極めて短き花梗を有する雄花二〇—三五個塊狀を爲し、簇生す、花被は三枚、廣紡錘形、全縁、内方に凹曲す、長さ約1 m.m. 淡黄色にして外面に毛を被る、中央に不明瞭なる一本の脈あり。雄藥は八—一〇本あり、花絲は長さ1 m.m. 餘、藥は四胞より成る。雌本に於ても花軸は枝の上方に腋生し、纖細にして長さ6—15 c.m. 其項端に三—五枚の苞ありて雌花を包む、苞は葉狀にして長卵形、先端銳尖し、底部は廣く圓し、縁に細き鋸齒あり、基脚より五本の脈分れ出で、中の三本顯著なり、長さ15

— 27 m.m. 幅 7 — 13 m.m. なり。苞の内には一〇個内外の雄花あり、雌花には花被あり、長短不同なれども長きは 13 m.m. に至るものあり、花被は始め袋状を成して子房を包み、子房長ずるに従ひ其一方開裂して子房は漸次露出し、遂に花被は果底の一方に偏して帯となりて残留す、其外面には毛を被る。子房は略々卵形にして少しく兩側に扁平なり、其全面に特異なる疣状毛を被り、背面より頂上に互りて約八本の棘状の突起二列に生ず。花柱は子房の頂部の中心を外れたる所より抽出し、長ずるに従ひ背方に反捲し、其全腹面に棘状突起を生ず、全長 12 m.m. に至る。果實は略々球形にして少しく兩側に扁平なり、徑約 4 m.m. なり、果頂には棘状突起と花柱の乾燥せるものとを冠す、單胞にして一個の種子を藏す、往々二個の子房癒合して一果二胞を成せることあり。種子は扁平にして一方に著しき長大なる臍(hilum)あり、種皮は濃褐色にして無毛なり、余の得たる標本は未熟にして充實せざるものなりしが徑 3 m.m. 餘なりき。 *M. carolinensis*, Volk. は恐らく是れなるべし。

Truk, Ponape, Kusai, Angaur, Palau 及び Yap の諸島に於て恰も我が内地のあかめがしはの如く林野各所に生ず、殊に Angaur 島には一町程の間殆此木のみ生じたる所あり。
Macaranga sp.

前種に酷似すれども、葉の上部は淺く三つの裂片に分れ恰もあかめがしはの葉に似、各裂片の先端は鋭く尖る、葉邊には殆鋸齒なく、唯微かに淺き凹凸あるのみ、葉柄の着點は葉底を距ること葉身全長の約 1/3 の所に在り、此着點より十一本の脈を射出す(前種は八本)其内にて中肋と其左右の一對は顯著にして各裂片の末端に向ひて走り、残りの八本の脈は下

方に向ひ、其各個或は一二を除きて各其中程に楕圓形、褐色の蜜腺あり、葉の表面には葉脈を除く外は殆無毛平滑にして(前種には微毛生じ羅紗の如き觸感を與ふ)葉質は前種に比して稍々厚し、托葉は早く脱落す(余は托葉ある標本を得ざりき)花序は前種より枝多し、花は前種と異なることなけれども、花叢の苞の内面の吸盤狀の蜜腺は前種に比して稍々大なり。余は雌本を得ざりき。

余は之を Ponape 島の森林にて之を得たり。余は始め Truk 島にて得たるもの(即ち前種)と同種なりと思惟せしが後標本を比較研究するに及んで全く別種とすべきものと知りぬ。

Mallotus sp. やはらあかめがしは(新稱)

小喬木、雌雄異株、若き枝は軟弱にして草木質なり、枝には皮目 (lenticell) 著しく表る。葉は互生、楕圓形、葉頂及葉脚鈍尖す、葉邊は波狀に凸凹す、長さ 16 — 24 c.m. 幅 9 — 10½ c.m. を普通とすれども時には長さ 30 c.m. 幅 18 c.m. なる者あり、葉は稍多肉にして軟質なり平滑なれども裏面に於ては中肋及側脈のみに毛を生ず、葉身と葉柄との接合點より少しく下方に一對乃至三對の小さき蜜腺あり、葉柄は有毛、葉身の長さの約 ½ 即ち 2½ — 7 c.m. なり。花序は腋生、無枝、長さ 5 — 9 c.m. にして 3 — 5 m.m. 宛を隔て、花叢あり、一花叢には 4 — 6 個の花あり。雄花は三枚の萼片を有す、萼片は圓形、平滑、紫褐色を呈す、外面に少しく毛あり。花冠を缺く。雄藥は概ね四十本あり、二個の花粉囊は互に隔りて着生す、花絲は甚だ短し。雌花も三枚の萼片を有し、覆瓦狀に配列す、質厚く毛を生ず、花冠を缺く、盤狀體 (disk) は牙狀をなし、其數

萼片を有し、覆瓦状に配列す、質厚く毛を生ず、花冠を缺く、盤状體(Discus)は牙状をなし、其數

個、濃紫紅色を呈す、子房は三或は四室を有し、其花柱は大を短し、...
と7 m.m. 褐色平滑なり、種子は膜状の假種皮を被り、黑色堅實網状の皺を有す、徑3 m.m. なり。

Ponape 島の森林中に生ず

Manihot Glaziovii, M. ARG.; EGT. N. P. Teil. III. Abt. V. 79; MER. M. 297; MACM. T. G. 54, 489, 576;

WINK. R. H. 169; HAY. G. I. F. F. 67; KAW. M.; KAW. S. **せらごむのき**

余は Ponape 島舊獨逸政廳の有用植物試植地内に前記ばらごむのきと共に唯一本の若木の植ゑられたるを見たり。又河野丑之助氏は Saiipan 島に於て大正五年八月五日同島政廳に栽培せるものより一葉を採り送り越せり。

Manihot utilisissima, POHL.; EGT. N. P. Teil. III. Abt. V. 79-81; MACM. T. G. 222, 655; MER. F. G. 103;

MER. M. 297; WINK. R. H. 170; HAY. G. I. F. F. 67; KAW. M.; KAW. S.;

たびおかのき 又は **いものき** (HAY. G. I. F. F.)

Tuk, Ponape, Palau, Yap 及び Saiipan. の諸島に於て栽培せらる、殊に Ponape にては政廳の附近の畑地に盛に栽培せられたり。

Manihot utilisissima, POHL. var. Aipi, POHL.; WINK. R. H. 168; MACM. T. G. 224.

あまたびおかのき (新稱)

Ponape 及び Yap に於て栽培せる(獨逸政廳が栽ゑたるものなり)を見たり、又河野丑之助氏は Saiipan 島にて大正六年四月二十五日採集せり。

Phyllanthus Niruri, L.; Hook. F. B. I. Vol. V. 298; DN. F. K. H. 234; TR. F. C. Vol. IV. 23; MER. G.

104; MER. M. 285; HAY. G. I. F. F. 67; EGL. N. P. Teil. III. Abt. V. 20.

きだちこみかんさう

余は巡遊せる各島嶼の内 Saipan 島を除く他の凡てに於て之れを見たり。

Phyllanthus Urinaria, L.; Hook. F. B. I. Vol. V. 293; DN. F. K. H. 234; TR. F. C. Vol. IV. 21; MER. F.

G. 105; MER. F. M. 285; HAY. G. I. F. F. 67; EGL. N. P. Teil. III. Abt. V. 20.

こみかんさう

Truk 島彙中 Fefan (秋島)及び Unol (冬島)に於て之を見たり。

Phyllanthus (sect. Paraphyllanthus, M. ARA.) sp.

きだちひめみかんさう(新稱)

一年生草本、雌雄同株、莖直上、高さ50—70 c.m. 側方に多數の枝を出す、葉は扁平なる稜角ある

枝に羽狀を爲して着生す、葉は互生、披針狀にして先端鋭尖す、葉脚は丸く左右不等形をな

す、葉邊は全縁なり、葉邊に沿ひて葉の兩面に極めて短き微毛を生ず、葉長4—8 m.m. 幅1½—

2²/₁₀ m.m. 葉柄極めて短く或は殆ど無柄なり。托葉は膜質、披針狀、鋭尖、無柄、長さ1 m.m. 宿存性な

り。枝の半ばより下方に於ては葉腋に各一個宛の雌花を着生し其基部に三枚の苞あり

苞は披針狀頂端は漸次狭まり鋭尖す、無毛にして縁邊は膜質となる、宿存性なり。花被は

六個覆瓦狀に配列し、基部は合一す、中央紫紅色にして縁邊は無色透明なり、披針狀或は長

卵形にして頂端は鈍なり、稍多肉にして宿存性なり。子房の基部に盤狀體あり、薄くして

襟卷狀をなし子房の基部を圍む、子房は三室にして花柱も三個其先各二に分る、花柱極め

て短く、唯子房の上は六個の盤狀體をなせる性頭を有する。雌花は枝の半ばより上方に

... 雌花は枝の半ばより上方に...

方の葉腋に凡そ三乃至五個宛極めて短き圓錐花序をなして叢生す最上より二ツ目まで
の花は開くも他の一二個は發育を遂げず花序及各個の花には一個の尖りたる苞を有す
花被は六枚覆瓦狀に配列す楕圓形白色基部にて僅に合着す盤狀體は六個楕圓形黄色雄
藥の花絲柱の基部を圍りて着生す。雄藥の藥は三個柱狀の花絲の頂端に頭狀をなして
集る各二個の花粉囊よりなり囊は縦裂す。蒴果は徑2 m.m. 扁球形上方より見れば略三角
形をなす心皮は六裂す熟すれば橙黄色となる。種子は球面一平面二の三面體にして各
面に横皺あり黄白色を呈す長さ1 m.m. なり。

Truk 島彙の Moen (春島)の草原に生ず。

Phyllanthus sp. あつばこぼんのき(新稱)

灌木、高さ1—1½ m. 葉は厚く革質にして無毛光澤あり長さ14—22 m.m. 幅9—17 m.m. 卵形兩
端丸く微細なる透明質の油胞散在せり葉脈は不明瞭無柄或は甚短き葉柄あり托葉は膜
質披針狀脱落性長さ1½—2 m.m. なり。雄花序は腋生少數の苞を有し二乃至四個の花簇生
す花は徑4 m.m. 花梗は長さ2 m.m. 花被は四個にして二輪に二個宛覆瓦狀に着生す圓形或は
卵形にして邊緣は殆平滑頂端は鈍或は少しく尖る。蜜腺は四個萼片と互生す腎臟形に
して僅に稜角あり。甚短き柄あり。雄藥は二本花絲は全長の3分の2の所より以下は癒合し
て一本の柱狀體となり其れより上の部分は分離せり。藥は明に二ツの花粉囊に分れ囊
は縦裂す。雌花は觀察するを得ざりき恐らくは雌雄異株なるべし。

Palau 島彙の Korol 島の原野に生ず樹姿一見はまひさかきの如く頗る雅致あり庭園

樹として觀賞するに足る。又河野丑之助氏は此植物を Saipan 島に於て大正六年五月二日採集せり。

Ricinus communis, L., *Fagl. N. P. Teil. III. A. V. 71*; *Hook. FB. I. Vol. I. 457*; *Merr. M. 296*; *Merr. G. 105*; *Macm. T. G. 40, 537, 597*; *Wink. B. H. 225*; *Hay. G. I. F. F. 67*; *Kaw. M. たらこま*

Truk 島彙の Udot (月曜島)に唯二—三本栽ゑられたると Angaur 島の磷礦會社の俱樂部の附近の路傍に殆捨生へとなれるを見たり。又河野丑之助氏は Saipan 島にて大正六年七月二日採集せり。

ANACARDIACEÆ うるし科

Campnosperma sp. ひはばはぜのき(新稱) Dohn (Ponepe 島の方言)

大喬木、葉は單葉、互生、楔形にして概形ひはの葉の如し、葉頂圓く、葉脚漸次狹まりて葉柄に移り續き、屢々其基端耳狀を成せり、葉邊は全縁なり、大きに不同ありて、大なるは長さ 80 c.m. 幅 27 c.m. 以上に至るものあり、花序に近き小なるものは長さ 16 c.m. 幅 6—7 c.m. に過ぎず、革質にして兩面平滑にして光澤あり、三十乃至四十數本の支脈は中肋の左右に稍々大なる角度を爲して殆平行に走る、脈は葉の裏面に隆起せり、葉柄は極めて短く 2—2.5 c.m. に過ぎず、扁平にして表面に淡褐色の絨毛を密生し、裏面は無毛なれども老成せるものにては疣狀の皮目 (Lenticell) を生ず。花序は枝の先端に腋生す、圓錐花序なり、長さ 01 c.m. 内外にして下より末端に至るまで短き枝を出し、其枝より數個の花梗を分枝せり。余は花ある標本を採集するを得ず、唯葉は果實の標本を採集す。

6 m. 果底に少く四枚の花被宿存して蒂を成す、外果皮は暗紫褐色、中果皮は肉質はしむ薄く、内果皮は堅く骨質なり、二胞にして其一は他に比して發育勝り、横断面を見るに其隔壁は弧状乃至馬蹄形をなして劣勢の胞に向ひて彎曲せり、優勢の胞は全體の $\frac{2}{3}$ 以上を占め劣勢の胞は上方の一侧に偏し其内には種子成熟せず。種子は優勢の胞内に唯一個生じ扁平にして隔壁に沿ひて縦に彎曲せり、種皮は薄く、平滑にして褐色を呈す。是れ恐らく *C. berevipetiolata*, Volk.; Kan. 56. なるべし。

Ponape 島の森林の代表的喬木の一にして、島民之を *Dohn* と呼び、用材として重要視せり。尙 Angaur 島の森林にも之を生ず。

Mangifera indica, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 146; Hook. F. B. I. Vol. II. 13; Mer. G. 105; Mer. M. 300; Dn. F. K. H. 69; Macq. T. G. 169; Wink. B. H. 168; Hay. G. I. F. F. 17. まんごう

余等の巡遊せし凡ての島嶼に栽植せらる、殊に Ponape 島の西班牙領時代の舊城境内には見事なる老木あり、且つ同島には路傍の山地に野生の狀態を爲して生育せるものを見たり。

Rhus sp. ?

おはばはぜのき(新稱)

喬木、葉は奇數羽狀複葉、葉柄及小葉柄には灰色の短毛を生ず、小葉の數は五乃至二十一個、小葉は互生なれども殆ど對生せる所もあり、形は楕圓形乃至長卵形、葉頂は鈍尖、葉脚は左右不等にして圓し、葉邊は殆ど全縁なり、葉脈は概ね十四對にして裏面に於て著しく顯はる、長さ 6—13 c.m. 幅 28—48 m.m. なり、葉の表面は平滑裏面に於ては中肋のみ少しく短毛を被る、花

序は總狀花序にして枝に頂生し、少しく分岐す、長さ約13 c.m. 果實は核果狀、徑4—5 m.m. 圓形にして左右より扁壓せらる、花ある標本を採集し得ざりき。

T. uk 島彙の Moan (春島) 山地に生ず。

Semecarpus sp.

びはぼうるし(新稱)

喬木、葉は單葉、互生、倒長卵形乃至楔形にして稍々びはの葉の如し、葉頂は圓く稍々鈍尖し、葉頂を距ること葉の全長の約1/2の所最幅廣くして其れより下方に向ひて漸次狹まり、葉脚は楔形に鋭く尖る、葉邊は全縁なり、大きに不同あり、大なるは長さ30 c.m. 幅10 c.m. 以上、小なるは長さ7 c.m. 幅3 c.m. のものあり、通常は長さ約25 c.m. 幅7 c.m. なり、革質にして兩面共無毛、表面に光澤あり、支脈は中肋と大なる角度を爲して互生し、其數平均十五對なり、支脈の間に細脈網狀を爲して明かに表はる、裏面には脈隆起せり、葉柄は稍々扁平にして幅狭く、長さ2.4—4 c.m. なり、其基部は少しく肥大し、外面コルク質となれり。雌雄異株にして、雄本に在りては花序は圓錐花序にして枝の末端に一數本着生す、花軸は長さ10—15 c.m. にして二—三回短き枝を分ち、褐色にして絹絲光ある絨毛を生ず、小枝の末端に三—四個の無柄の花着生す、雄花は徑約4 m.m. 黄白色を呈す、萼は覆瓦狀に配列せる五枚の萼片よりなる、萼片は扁圓形の鱗片狀にして徑約1 m.m. 外面及縁邊に毛を生じ、内面は無毛にして數條の黒き縦線あり。花冠は鑷合狀に配列せる五枚の花弁よりなる、蕾に在りては花弁は縁邊を以て各其隣の瓣と癒合し、鈍頭圓錐形を呈す、後各瓣は基部まで互に離れて開展す、花弁は萼片と互生し、卵形にして、肉厚く、外面は絨毛を密生し、内面は無毛なり、長さ3 m.m. 幅2 m.m. なる

り、萼片も花瓣も花後個々に離脱せず、花托に固着せる儘腐朽す。雄蕊は五個、花瓣と互生す。葯は内向し稍細長く、約 1.7 m.m. なり、二個の花粉囊より成り、其の上半は合し、下半は離る。花絲は短く、圓盤狀に隆起せる花托の根元より出で、上端は葯の裏面に於て花粉囊の分れ目の所に接着す。花托は圓盤狀にして一面に厚く絨毛を生じ、中央少しく凹む。雌蕊の痕跡なし。余は雌本を得ざりしを以て断定し難きも *Semecarpus*, L. f. に屬するものと思惟す、但し雄花の花瓣の鑷合狀に配列する點は同屬の特徴に抵觸すと雖も他の諸徴は之に一致す。是れ恐らく *S. venenosa*, VOLKENS. なるべし。

Palau 島彙 Korol 島に産す、傷より出でし汁液は乾固して漆の如く、黑色となる。此液に觸るれば漆瘡を起すと稱し、島民は此樹の下を過ぐるだに怖る。

屬名未詳

Rhus sp. ? 小喬木、葉互生、奇數羽狀複葉、全長 22 — 30 c.m. 小葉の數多くは九枚、楕圓形或は長卵形、葉端尖り、葉脚鈍、小葉柄に向ひて少しく狭まる。葉邊に淺く粗なる鋸齒あり、小葉の長さ 5 — 10 c.m. 幅 2 — 3½ c.m. 側脈の著しきものは約十一對、葉の兩邊に沿ひて走る脈ありて側脈は悉く之に合す、小葉柄は短く、3 — 5 m.m. なり、小葉は對生し、或は少しく喰ひ違ふことあり、花も果實も之を得ざりき。

Angaur 島の森林に生ず。

SAPINDACEÆ

むくろらじ科

Allophylus Cobbe, Bl.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 313; Hook. F. B. I. Vol. I. 673; Tr. F. C. Vol. I.

303; (*A. timorensis*, BL.; KOZ. V. J. 25; MER. G. 106.)

form. racemosus, (L.); Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 313; Hook. F. B. I. Vol. I. 674;

はるまのおかきもとき(新稱)

Truk Kusaie 及び Jalrit の諸島に産す。

form. Rheedi, (WIGHT.); Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 313; Hook. F. B. I. Vol. I. 674; (*A. Rheedi*, WIGHT.; HAY. G. I. F. F. 16.)

おかきもとき

Truk Kusaie Jalrit 及び Palau の諸島に産す。

Cardiospermum Halicacabum, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 307, 308; Hook. F. B. I. Vol. I. 670; DN.

F. K. H. 66; Tr. F. C. Vol. I. 299; MER. G. 107; MER. M. 304; HAY. G. I. F. F. 16.

ふうせんかつら

Saipan 島に於て河野丑之助氏大正六年八月二十五日採集す。

Dodonea sp. おほばはらちほらちほら(新稱)

ひるぎ林中に生ずる喬木。高さ約6—8 m。葉は單葉、互生、倒卵形、或は楕圓形、葉端鈍、葉脚楔形、葉邊全緣、長さ20—24 c.m.、幅は最廣き所にて10—11 c.m.、葉面は平滑にして粘液腺なし、裏面に於ては中肋及側脈のみに毛を生ず、側脈は概ね18—20對にして互に平行、中肋と大なる角度を爲す、葉柄は長さ6—7 c.m.にして毛を被る、托葉なし、花は兩性花と雄花とを一家に混生す。花序は腋生にして長さ約2 c.m.の圓錐花序なり。雄花は徑3 m.m.、萼片は四個小形にして厚く鱗片状をなす。花萼も四個、萼片と對生す、長楕圓形、全緣、先端鈍、厚

四個小形にして厚く鱗片状をなす。花瓣も四個、萼片と對生す、長橢圓形、全縁、先端鈍、質厚

し。雄藥四個花瓣と對生す、盤狀體の外側に挿入す、花絲は短く概ね $\frac{1}{2}$ m.m. 外方に彎曲す、藥は橢圓形二個の花粉囊よりなり外向す、盤狀體は本來は環状なれども四條乃至六條の深き褶襞によりて分斷せらる。花梗は短し、兩性花は雄花に比して幾分小なり、花梗も更に短し、萼は不明瞭、花瓣は四個、小にして圓形、内方凹彎す、雄藥八個、二輪に配列す、外輪の四個は甚短き花絲を有し、花瓣と對生し、且つ花瓣にて被はる、内輪の四個は比較的長き花絲を有す、藥は短橢圓形、花粉囊二個内向す、盤狀體は不明瞭、雌藥は圓形、兩側より扁壓せらる、頂端は分れて二腕となる、二室を有す、外面に毛あり。果實は圓形、扁壓、徑約 18 m.m. 頂端に丸形の切込あり、各室に一個の種子あり。種子は腎臟形、扁平、無胚乳、子葉扁平なり。
Truk 島彙の Moen (春島) のひるぎ林中に生ず。

BAISAMINACEÆ. ほらせんくわ科

Impatiens Balsamina, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 389; Hook. F. B. I. Vol. I. 453; DN. F. K. H. 54; MER. F. G. 107; MER. F. M. 307; TR. F. C. Vol. I. 203; HAY. G. I. F. F. II. **ほらせんくわ**

Truk Ponape 及び Jaluit の諸島に於て島民或は居住歐米人觀賞の爲栽培せり。

VITACEÆ. ぶどう科

Cissus trifolia, (L.) K. SCHM.; MER. F. M. 311; (*C. carnosca*, LAM; Egl. N. P. Teil. III. Abt. 453 = *Vitis carnosca*, Wall.; TR. F. C. Vol. I. 294; HOOK. F. B. I. Vol. I. 654 = *Vitis trilobata*, L.)

みつばのやぶからし(新稱)

Truk 島彙の Dublon (夏島) と Umol (冬島) 及び Angaur 島に産す。

Leea sp. (*L. sambucina*, WILL.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. V. 456; Hook. F. B. I. Vol. I. 666; Tr. F. C. Vol. I. 297, HAY. G. I. F. F. 15. ?)

Angaur島の森林中に於て美麗に果實の赤熟せるを見たり、予は當時表記括弧内の種即我が臺灣にも産する *L. sambucina*, WILL. (おほらどかつら)なりと認め、採集せざりしが此屬には尙之と其近似せる種あるを以て他日標本を得て精檢するを要す。

Vitis vinifera, L.; Hook. F. B. I. Vol. I. 652; Macm. T. G. 188; HAY. G. I. F. F. 15; KAW. M. 225

Ponape 島及び Yap 島の舊獨逸政廳の庭に棚作り栽培せり、専ら風致竝に日覆の爲に植ゑたるものなり。

ELAEOCARPACEAE. もがし科

Elaeocarpus sp. **ながぼもがし(新稱)**

是れ即 *E. carolinensis*, KOZ. P. N. M. (T. B. M. Vol. XXX. 403) なるべく又恐らく *E. Kanehirae*, MERRILL; KAN. 55. ならんか。

大喬木、葉形 *E. decipiens*, HEMSL. (もがし)に酷似し、質稍薄し、長橢圓形にして兩端尖り、葉邊には淺き細き鋸齒あり、兩面共に無毛なり、長さ 10 — 13½ c.m. 幅 2½ — 4 c.m. 葉柄の長さ約 1 c.m. 葉脚は漸を以て葉柄に續く、新芽葉柄中肋の基部等に少しく絹絲光ある灰色の毛を生ず。予は此植物の花も果實も之を採集するを得ざりき。

Ponape 島の林野に生ず、同島にて最丈高き樹の一つなり。

Elaeocarpus sp. **おほらどかつら(新稱)**

是れ即 *E. Kusanoi*, Koiz.; P. N. M. (T. B. M. Vol. XXXI, 232) なるべく又恐らく *E. samoensis*, Lavr.; KAN. 56. ならんか。

喬木、葉は廣橢圓形或は卵形、葉頂は鈍尖、葉脚は圓し、葉邊は淺く波狀に凸凹す、長さ 10—15 c.m. 幅 5—8½ c.m. 兩面共に全く平滑なり、葉質は稍革質にして光滑あり、葉柄は稍長く、葉片の長さの約 1/3 なり、葉脚と接する所及び枝に接する所は少しく膨大し、まめ科植物に於ける如き屈伸關節 (Gelenk) を爲す、葉柄も全く無毛なり、新芽よりは *Populus* 屬に於ける如く粘液を分泌す。花序は腋生し長さ約 5 c.m. の總狀花序をなす、予の得たる標本にては花の數一總に十個在り。花は徑約 6 m.m. 小花梗長さ 8 m.m. 薄く灰色の短毛を生ず。萼片は五個鑷合狀に配列す、披針狀にして外面絨毛を密生す。花瓣も五個亦鑷合狀に配列し、萼片と互生す、花瓣の端は犬齒狀に六裂す、兩面に絨毛を生ず、雄蕊は 30—32 本、葯は長く兩端尖り殊に先端は著しく尖れども特別の鞭狀突起物を有せず、基部は漸を以て花絲に續く、花絲及葯の下部には毛あり。子房は三室よりなり、各室に數個の胚珠あり、子房は略々圓く、頂部漸次狹小して花柱に續く、花柱は短し、外皮は平滑なり、果實は橢圓形長さ 13 m.m. 徑 9 m.m. 核果狀をなす、内果皮は深き皺狀突起を有す。

Ponape 島の森林中に生ず。

Elaeocarpus sp. おほぼもがし(新稱)

小喬木、葉、倒披針狀、葉頂は鈍尖す、葉脚は漸次狹まり稍楔形をなす、葉邊には淺き鋸齒あり、鋸齒の大小、形狀葉によりて異なり、裏面に葉脈著しく突出せり、葉長 14—23 c.m. 幅は 1—3 c.m. 所

にて6—7 c.m. 葉柄は短く6—8 m.m. に過ぎず。新芽には灰白色の毛を生ず。花も果實も観察するを得ざりき。

Ponape 島の森林中に生ず。

TILIACEÆ. からすのごま科

Triumfetta procumbens, FORST.; ITO & MATSUMURA, Tentamen Florae Lu-chuensis, in Journal of the College of Science, Imperial University of Tokyo, Vol. XII. 80; MER. G. 110; KOTZ. V. J. 251; KAW. S. **はひらせんさう(小泉)**

Jaluit 島及び Angaur 島の砂濱及び珊瑚礁上に生ず。Jaluit 島の方言を Atak と云ひ、靱皮を日に晒すときは美麗なる褐色の纖維を得 *Pandanus* (あだん屬植物)の葉と *Hibiscus tiliaceus*, L. (おほはまぼう)の靱皮とを以て莫塵團扇等を作るとき、此の纖維を編み交ぜて其裝飾と爲す。

Triumfetta rhomboidea, Jacq.; EGB. N. P. Teil. III. Abt. VI. 28, 29; HOOK. F. B. I. Vol. I. 395; TR. F. C. Vol. I. 179; DN. F.K. H. 51; HAY. G. I. F. F. 10; MAC. T. G. 552; WIN. B. H. 262. (*T. Borbami*, L.; MER. M. 314) **かぢばらせんさう**

草本莖直立、高さ50—65 c.m. 少しく毛を生ず。葉互生、形狀種々なり、上部の葉は卵形乃至披針狀、葉頂漸次狭まり鋭尖す、葉邊に鋸齒あり、長さ3—5½ c.m. 幅1—2 c.m. 甚短き葉柄を有す、下部の葉は大なる缺刻によりて三個の裂片に分る、五個の著しき葉脈あり、葉邊に鋸齒あり、長さ6½ c.m. 幅5½ c.m. 葉柄の長さは葉身の半ば以上にして即ち約15—40 m.m. なり、總べて葉

には両面に星芒状の毛を生ず。花梗は腋生し甚短し、各數個の花を、着生す、莖及枝の上部に於ては末端に至るまで葉腋毎に必ず花梗を抽出することはないばな又はしうぶんさう等に於けるが如し。花は徑約5 m.m. 萼片は五個、線状にして毛を生ず、長さ4 m.m. 頂端に刺状突起あり、(mucronate) 五本の竝行せる脈あり、花瓣は五個、黄色、鐘形、長さ3½ m.m. 基部に於ては左右の縁邊に毛を生ず。雄藥は十本、花絲の長さ3 m.m. なり。果實は球形にして棘状毛を生じ、尙ほ細き星芒状の毛を生ず、徑は刺共に約6½ m.m. なり、棘状毛は平滑にして先端鉤形に曲り、鉤状部は透明質なり。

Ponape 島の林間の草叢中に生ず。此植物は奄美大島、沖繩諸島、臺灣等にも産し我國のFloraには珍らしからざるものなれども、此島にて得しものは予が曩に大島、沖繩等にて普通に見しものと概形著しく異にして一見別種の觀ありしが委細に檢するに及び全く此種に他ならざることを知れり。

Triumfetta semitriloba. L.; Egl. N. P. Teil. III Abt. VI. 28; Hook. F. B. I. Vol. 396; Hay. G. I. F. 9;

Wink. B. H. 262; (*T. semitriloba*, Jacq; Mer. F. G. 110; Mer. F. M. 314; T. B. M. Vol. X. 57.)

はてるまかづら(田代) 又は からびんらせんさう(Hay. G. I. F. 9.)

草本にして下方稍々木質となる、高さ約1 m.m. に至る、多數分枝し直上す、葉、莖に星芒状の毛を生ず、葉は廣卵形乃至卵形、或は紡錘形にして葉頂は尖り下方の葉は時として淺き三つの裂片を成さんとする傾向あり、葉脚圓し、葉邊には鋸齒あり、葉脚より五本の脈を出す、但し上方の小さき葉に於ては最下の一對の脈は一本或は二本共消失せり、表面は鮮綠にし

て毛は甚少く、裏面は淡くして毛多し、大きに不同あり、余の得たる標本にありては通常長さ5 c.m. 幅3.5 c.m. 位なり、葉柄は葉長の約 $\frac{1}{2}$ にして毛を被る、托葉は線狀、長さ3 m.m. 程なり。花序は短き繖房花序にして葉腋より一—四本生じ、分枝せず或は一回分枝せるものあり、其先端に一—三個の花を着生す。花は徑約4—6 m.m. 花冠濃黄色を呈す、各花には披針狀の小苞あり、花梗は長さ約1.5 m.m. にして花後伸びて長さ3—4 m.m. の果梗となる。萼は五枚の萼片鑷合狀に配列す、萼片は披針狀にして先端銳尖し外面に毛を被り、内面は無毛なり、長さ6 m.m. なり、花瓣は五枚あり、長筒形にして上方圓く漸次下方に狭く基脚に近く兩側に毛を生じ、基脚は紅色を呈す、長さ4.5 m.m. なり。雄蕊は十五本内外あり、雄蕊は長さ4 m.m. 基脚褐色にして他は無色なり、藥は二個の短き長さ3 m.m. 花粉囊より成る。子房は略々球形、徑4 m.m. 厚く毛を被り、花柱は長く、枝なく、長さ5.5 m.m. なり。果實は珠形、徑3.5—4 m.m. 星芒狀の毛を被り且つ金面猬の如く長き棘を生ず、刺は長さ3 m.m. にして、其上に下に向へる枝なき毛を粗に生ず、鈎狀部は透明質なり、三胞よりなり、各室に一個の種子を藏す、種子は卵形にして上端鈍尖し、下底圓く、外方は球面、内方は二つの平面を成す、皮は平滑にして暗褐色を呈す、長さ3 m.m. 幅2—2.3 m.m. なり。

Saipan 島の草原に生ず。

MAIVACEAE. やびあひ科

Abelmoschus esculentus, MENCH.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 50; MERR. F. G. 111; MERR. M. 321; WINK

R. H. 1; (*Hibiscus esculentus*, L.; Hook. F. B. I. Vol. I.; 343. MACM. T. G. 239.)

やびあひ (Okra 又は Gumbo)

B. H. 1; (*Hibiscus esculentus*, L.; Hook. F. B. I. Vol. I.; 343. Macm. T. G. 230.)

かくらん(Okra 又は Gumbo)

Truk 島嶼の Dublon (夏島)の舊獨逸政廳の菜園に栽培せられたりを見たり。

Abelmoschus moschatus, MENCH; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 50; MER. F. G. 111; MER. M. 321; WINK. B. H. 1; (*Hibiscus Abelmoschus*, L.; Hook. F. B. I. Vol. I. 342; Tr. F. C. Vol. I. 156; Dn. F. K. H. 48; Macm. T. G. 574; Hay. G. I. F. F. 9; Kaw. M.

Truk 島嶼の各島嶼に Kusaie 島に産す

Abutilon indicum, G. Don; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 37; Hook. F. B. I. Vol. I. 326; Tr. F. C. Vol. I. 145; Dn. F. K. H. 47; Mer. G. 111; Mer. M. 318; Hay. G. I. F. F. 9. **かかちんじまひ**

Saipan 島に於て河野丑之助氏大正六年七月十日之を採集す。

Gossypium barbadense, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 52; Wink. B. H. 127; Hook. F. B. I. Vol. I. 347

See-Island-Cotton

Truk 島嶼の Fefan (秋島)及び Ponape 島にて島民の家の傍に少しく植ゑられ又 Ponape 島舊獨逸政廳所屬の圃場に二三畝歩栽培せられたり。

Hibiscus mutabilis, L.; Hook. F. B. I. Vol. I. 344; Mer. G. 111; Mer. M. 322; Dn. F. K. H. 48; Macm. T. G. 319; Hay. G. I. F. F. 9. **ふやらん**

Truk 島及び Ponape 島に於て觀賞の爲栽植せられたるを見たり。

Hibiscus rosa-sinensis, L. Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 48; Hook. F. B. I. Vol. I. 314; Mer. G. 112; Mer. M. 323; Dn. F. K. H. 48; Wink. B. H. 145; Macm. T. G. 118 etc.; Hay. G. I. F. F. 9.

ぶつさうげ

余等の巡遊せし凡ての島嶼に於て島民竝に居住歐米人の庭に觀賞の爲め栽植せらる。

Hibiscus Sabdariffa, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 48; Hook. F. B. I. Vol. I. 340; MER. M. 322; MACM. T. G. 167, 600; WINK. B. H. 144; HAY. G. I. F. F. 9.

Truk 島嶼の Dublin (夏島) の舊獨逸政廳の菜園に栽培せられしを見たり。

Hibiscus tiliaceus, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 49; Hook. F. B. I. Vol. I. 343; MER. G. 112; MER. M. 323; DN. F. K. H. 48; TR. F. C. Vol. I. 137; MACM. T. G. 351; WINK. B. H. 145; KOZ. V. J. 252; HAY. G. I. F. F. 9.

やまあさ(おほはまぼう)

余等の巡遊せし凡ての島嶼に産す是れ代表的植物の一なり。

Sida acuta, BURM.; DN. K. H. 47; MER. G. 112; MER. M. 318; HAY. G. I. F. F. 9; (*S. carpinifolia*, L.; Hook. F. B. I. Vol. I. 323; TR. F. C. Vol. I. 141.)

ほそぼきんごじくわ

半灌木。一年生なるべし。莖直上、高さ 30—40 c.m. 莖は強靱にして表面に少しく毛を生ず。葉は互生菱形或は橢圓形にして葉脚は楔形をなし、葉邊は齒牙狀 (*dentata*) をなす、長さ約 6 c.m. 幅 2—3.5 c.m. 表面は僅に星芒狀の毛を被り、裏面は淡色にして密に毛を生ず、葉柄は甚短く、長さ 5 m.m. 托葉は披針狀にして長さ 7—10 m.m. 幅 1—1½ m.m. 全縁にして縁には毛を生ず。花は葉腋に單生す、花梗は短く、長さ 4—5 m.m. 萼筒は膜質にして稍淺く、恰も *S. rhombifolia*, L. (きんごじくわ) に於けるが如し、熟したる蒴は十室よりなり、側面に網狀の脈を表は

す、各心度の頂端には各二本の短き刺あり、刺の長さは殆ど 1 m.m. 種子は黒褐色を呈す。
Truk 島彙の Dublin (夏島) に於て採集せり。此種は我が臺灣にも産するものなるが、臺灣にて普通見る所のものより葉著しく廣く大にして一見別種の如く惟はるれど各部を精査するときは全く別種にあらざるを知るべし。

Sida cordifolia, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 43; Hook. F. B. I. Vol. I. 324; Tr. F. C. Vol. I. 141;

D. K. H. +7; MER. M. 317; HAY. G. I. F. F. 9.

まるばきんどじくわ

美麗なる小灌木。高さ約 80 c.m. 莖直上し多數分岐す、全體天鵝絨狀に毛を密生す。葉は卵形にして缺刻なし葉端鈍圓、或は少しく尖る、葉脚は稍心臟形に入り込む、葉邊には粗鋸齒あり、長さ 3—6 c.m. 幅 2—5 c.m. 葉柄は長さ 13—20 m.m. 托葉は線狀長さ 5—8 m.m. 花は一乃至三個宛葉腋に出づ、花梗は葉柄より長く即ち 2—6 c.m. に至る、花梗には各一個の關節 (Joint) あり、小苞なし、花は徑 20 m.m. ばかり、萼には軟毛生じ萼筒は五つの稜角を有す、萼の裂片も五個にして三角形を呈し其先端鋭尖す、花冠は黄色五個の花弁は基部に於て合一し短き管となる、花弁は筒形にして稍左右平等を缺き、頂端は圓く、一つの缺刻によりて二つに分る、長さ約 15 m.m. 幅 12 m.m. なり、雄藥管は基端に於て花冠と癒合す、長さ約 7 m.m. 頂點に圓く頭狀をなして多數の葯着生す。雌藥の花柱は全長の半ば以上の點に於て八本に分離す。果實は宿存性の萼の内に隠る、心皮は八個、熟したる心皮は容易に分離す、心皮には芒も翅もなし、其頂端は少しく裂開せり。種子は黒褐色にして表面平滑なり。余は巡遊せる各島にて一度も其自生せるを見ざりしが Jalit 島彙の内の Enifor 島に

於て島民の家屋の傍に數株栽植せられしを見たり、是れ觀賞の爲か、或は纖維を採る爲か、判じ難かりしが恐らく前者なるべし。

Sida rhombifolia, L., EGR. N. P. Teil. III. Abt. VI. 43; HOOK. F. B. I. Vol. I. 324; TR. F. C. Vol. I. 141;

DN. F. K. H. 47; MER. G. 112; MER. M. 318; MACM. T. G. 552; WINK. B. H. 239.

きんごしぐわ

Truk Ponape Angaur Yap 及び Saipan の諸島に産す、尙河野丑之助氏が Saipan 島に於て大正六年七月十日に花あるものを同年八月二十日に葉のみものを採集せしが殊に後者は葉大にして且つ幅廣く、稍強剛なる枝に密着せるものにして一見此種に非ざる如く見ゆるも、精査の結果別種にあらざるを知りぬ。

Thespesia populnea, CORR.; EGR. N. P. Teil. III. Abt. VI. 50; HOOK. F. B. I. Vol. I. 345; TR. F. C. Vol.

I. 158; MER. G. 112; MER. M. 324; MACM. T. G. 41, etc.; WINK. B. H. 258; HAY. G. T. F. F. 9. KAW. M.

おきしまはまぼら 又は たまふりのき

Truk Kusaie Yap 及び Saipan の諸島に於ける海岸の代表的樹木の一なり。

Urena lobata, L.; EGR. N. P. Teil. III. Abt. VI. 45; HOOK. F. B. I. Vol. I. 329; TR. F. C. Vol. I. 147; DN.

F. K. H. 48; MER. M. 319; MACM. T. G. 552; WINK. B. H. 263. **おほぼんてんくわ**

Truk Ponape Angaur Yap 及び Saipan の諸島に産す。

BOMBACACEAE **わたのお料**

Ceiba pentandra, (L.) GÄRTN.; EGR. N. P. Teil. III. Abt. VI. 63; MER. F. M. 326; MER. F. G. 110; WINK. B.

H. 62; (*Eriodendron anfractuosum*, DC.) Hook. F. B. I. Vol. I. 350; MACM. T. G. 518. FR. F. C. Vol. I. 161.

しろきわたのき

Ponape 島の港の民家に此れの大木植多あり又同島の各所に挿木苗を植多付けある
を見たり又 Palau 島彙 Malaka 島の南洋貿易會社支店の裏庭に大木數本植多あり。

Durio zibethinus, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 67; MACM. T. G. 158; WINK. B. H. 105; (*D. Zibethinus*,
DC.; Hook. F. B. I. Vol. I. 351.)

Durian 又は Civet-Cat Fruit.

Ponape 島舊獨逸政廳附屬有用植物試植圃に唯一本の若木植多られしを見たり。

STERCULIACEAE おざきり科

Abroma augusta, L. fil.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 86; Hook. F. B. I. Vol. I. 375; MACM. T. G.
550; *A. augustum*; WINK. B. H. 1; *A. fastuosum*, GART; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 86; = *A. festuosum*,

JACQ; DN. F. H. K. 50; = *A. festuosa*; MACM. T. G. 324.)

Devil's Cotton (英名)

うらくさうちび(新稱)

Truk 島にては栽培せられたりしが Angaur 島にては自生の状態をなして盛に繁茂
せり然れども此島に元來自生せるにはあらざるべし。此植物には刺毛あるを以て
Angaur 島民は怖れて之に近附かず。

Commergonia echinata, FORST.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 83. **ながはずかけのき**(新稱)

大灌木乃至小喬木、多數分枝す、若き枝には褐色の軟き星芒狀の毛を被る。葉は互生、長

卵形、葉の中部以上より漸次狭まり、先端尖る。葉脚は圓く、左右不揃にして極めて淺く心臟狀に入り込む。葉邊には淺き鋸齒あり、長さ7—15 c.m. 幅3—7 c.m. なり、葉脚より通常五本の脈を出し、最下の一對は小き葉に在りては往々發育不完全なることあり、中肋よりは約七對の支脈を互生す。葉の表面は鮮綠にして殆平滑、唯僅に脈上に星芒狀の軟毛を生ずるのみ、裏面は灰色にして全面に厚く軟毛を被り、葉脈隆起せり、葉柄は6—15 m.m. 甚厚く軟毛を被る。托葉は線狀、甚微小、長さ2—4 m.m. 褐色にして一條の脈あり、粗に軟毛を生ず、早く脱落す。花序は繖房花序にして葉と反對の側より出づ、而して後に至りて更に其葉の腋より新しき花序を出すことあり、花軸は厚く毛を被り、二—三回分枝し、其枝端に數個の小き花簇生す、余は幼花と果實とを有する標本を得たるのみにして、完全なる花に就きて記述するを得ざるも、幼花と老類花とに就きて觀察し得し所によれば、萼は鑷合狀に配列せる五枚の萼片よりなり、開花すれば全く互に分離す、長卵形にして先端尖る、長さ3.5 m.m. 幅2 m.m. なり、五本の脈あり、毛を生ず。花瓣は五枚、萼片と互生し、線狀に狹長し、唯其莖部のみ廣がり、此廣き部分に數本の脈顯はれ、狹長部は暗褐色を呈す、長さ3.5 m.m. なり。假雄藥は五枚、花瓣と互生し、長三角形の瓣狀をなし、中央に一條の脈あり、長さ2 m.m. 幅1.2 m.m. にして微毛を生ず。各相隣れる假雄藥の間に雄藥あり、即五本の雄藥は花瓣と對生す、藥は二胞にして、花粉囊は短く上部にて合し、下部は離る、花糸は短し。余は花盛りの花を得ざりしを以て雄藥の形態を茲に記載するを得ず。果實は球形、果皮の全面に軟き棘密生し、以て毛毯を成す、徑は棘共に約1.5 c.m. なり、棘は硬剛ならず、線狀にして、

なり、灰色、星

芒状の軟毛を被る、果皮は堅く骨質にして五胞よりなり各胞に通常二個(時としては一
個又は三個)の種子を藏す。種子は楕圓形、平滑、暗褐紫色、下端に臍あり、長さ2.2
m.m. 幅1.5 m.m. なり。
果底には萼片宿残し、果梗は長さ5—7 m.m. なり。

Truk Ponape Palau 及び Yap の諸島に産す。此植物は嘗て本校第二回林學得業士照屋
全昌氏が Malay 半島にて採集し其腊葉を本校に寄贈せられしことあり、此植物は南
太平洋諸島、馬來諸島より壕洲の New South Wales まで分布せるものなり。纖維甚強
韌なるを以て利用の途あるべきを信ず。

Guazuma sp.

へらのきもどき(新稱)

木本、多数分枝す、若き枝には灰色の星芒状の毛を生ず、葉は卵形にして葉頂尖り、葉脚は
圓く、左右不揃にして少しく心臟状に入り込む、葉縁には細かき鋸齒あり、長さ7—10
c.m. 幅3—5 c.m. なり、葉脚より通常五本の脈を出す、中肋より互生して出づる著しき支脈は通常
五對なり、表面は鮮緑にして殆平滑なれども、脈及網状細脈上には無枝或は星芒状の微毛
を生ず、裏面は色淡く、星芒状の灰色の微毛を密生す、葉柄は短く、厚く灰褐色の毛を被る、長
さ4—10 m.m. なり、托葉は膜質披針状乃至線状にして長さ平均5 m.m. 暗褐色を呈し、多少毛を
被る。早く脱落す。花序は聚繖花序にして枝の上方に腋生す、一ヶ所より一本、時として
は二—三本宛出づ、花軸は密に毛を被り二—三回分枝す、開花時に於ける全長約2 c.m. に過
ぎず、枝端に五—六個の花着生す。花は徑約6 m.m. 花梗は長さ4—6 m.m. にして毛を被る、萼
は鑷合状に配列せる五枚の萼片よりなる、開花に當り、其内二—三枚は分離すれども他の

二枚は相癒合せる儘、外方に反曲す、萼片は略々卵形にして上端鈍尖し、兩面に毛を生じ、三條の脈あり、長さ4 m.m. 幅2 m.m. なり。花瓣は五枚、萼片と互生す、花瓣の形態は頗特異にして、其下方は僧帽狀に内方に彎曲し、其上端より狭長なる鞭狀の突起出づ、此突起は着點の少し上より二又し、著しく花上に抽出す、其鞭狀部の長さは4 m.m. 僧帽狀部は長さ4.5 m.m. (曲面に沿ひて測る) 幅約2.5 m.m. なり、色は恐らく赤なるべし。假雄藥は五枝、花瓣と互生し、其各個の間に雄藥の束を挟み、皆側縁にて癒合し、以て管筒を形成し、雌藥を包圍す、假雄藥は瓣狀にして上端三角形に尖り、中央に一條の脈あり、高さ2.7 m.m. なり。雄藥は三本宛、花絲合して束を成し、針にて分くれば容易に離る、花瓣に對生し、兩隣の假雄藥に挟まる、花絲は葯の少し下にて分れて彎曲す、葯は短く二胞より成り、赤色を呈す、雄藥の長さは3 m.m. 餘なり。雌藥は五つの心皮の合一して成れるものにして、子房は卵形にして上端に近き所にて急に狭まる、長さ約1.2 m.m. 全面に厚く毛を被る、其頂上より一束の花柱を抽出す、長さ1.3 m.m. 柱頭の部分にて少しく五裂し、其他の部分は合一すれども針にて分くれば容易に基端まで離る、果實を得ず。

Saipan 島にて河野丑之助氏が、大正六年四月廿五日に採集せるものなり、恐らく自生にてはあらざるべし。

Heritiera littoralis, DRYAND.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 99; Hook. F. B. I. Vol. I. 363, Tr. F. C. Vol. I. 167; MER. G. 113; MER. M. 323; WINK. B. H. 140; (*H. littoralis*, ATT.; IN. F. K. H. 44; HAY. G. I. F. F. 10.)

ちぎしますわら、又ははまぐるみ

Frink Yap 及び Saipan の諸島に産す。

Melochia corchorifolia, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 81; Hook. F. B. I. Vol. F. 374; Tr. F. C. Vol. I.

170; MER. M. 330; DN. F. K. H. 50; WINK. B. H. 175; HAY. G. I. F. F. 10. のおあふひ

Palau 島彙の Koror 島及び Saipan の草原中に生ず。

Melochia sp.

いぎりもどき(新稱)

喬木。葉互生、心臟形、葉頂は鋭尖、葉脚は心臟形に入り込む、葉邊に鋸齒あり、成長したる葉は葉脈にのみ毛ありて他は殆平滑なり、然れども若き葉は表面に羅紗の如く短毛密生し、裏面にも薄く毛を生ず、長さ10—16 c.m. 幅7—11½ c.m. 葉柄は長く葉身の長さの約2/3即7—8 c.m. あり、短毛を被る。托葉は卵形、全縁、無柄、膜質にして褐色を呈す、長さ5—6 m.m. 脱落性なり。花梗は腋生にして長さ10—20 c.m. 頂端に數條の短き枝を生じ、其枝の端に十乃至十二個の花簇生ず、小苞は五個、卵形にして長毛を生ず、覆瓦狀に配列す、萼筒は五個の裂片を有す、裂片は鋭尖し、短毛と長毛とを生じ、乾燥すれば灰黄色を呈す。花瓣は筒形、頂は截形をなし、長さ1 c.m. 幅4 m.m. 色は淡紅、基部は雄藥管と癒合す。雄藥は五本、花絲は膜狀物を以て合同し管となる、全長の半ばより稍上方に於て別々に分る、藥は紫色を呈す。子房は厚く毛を被り、五本の分離せる花柱を有す。蒴は五室、各室に一個の種子を有す。種子は長楕圓形にして翅なく、暗褐色、不明瞭なる縦線あり、長さ2 m.m. なり。

余は Yap 島に於て樹木繁茂せる丘陵に沿へる路傍に於て之を採集せり。又河野丑之助氏は Saipan 島に於て大正六年四月二十一日之を採集せり。

Melochia sp.

ひらうどいいぎりもどき(新稱)

小喬木。高さ約5 m。葉及若き莖は總て天鵝絨狀に毛を密生す。葉は心臟形にして前種に比して廣く、且つ大なり、葉頂銳尖し、葉邊に鋸齒あり、葉脚は心臟形に入り込み稍左右不等形なり、長さ約20 c.m. 幅17 c.m. なり、葉柄は長さ6—10 c.m. 太く強く、厚く毛を被る、花梗も太く強く長さ6—22 c.m. 少しく分岐し或は無枝なり、末端に約十乃至二十個の花簇生す、萼筒は五個の裂片に分る、裂片は銳尖し其長さは萼の全長の殆半分なり、短毛及長毛を被る、乾燥すれば深褐色となる。花瓣は鐘形或は倒三角形、頂端は截形、全縁、長さ8 m.m. 幅6 m.m. 基部は雄藥管と癒合す、花絲の上部、全長の $\frac{3}{5}$ は分離し、下部 $\frac{2}{5}$ は甚薄き膜を以て結合せられ管狀となる、全長4 m.m. なり。子房は長橢圓形、密に毛を生ず、花柱は五本に分る、前種に比して短く、1—1 $\frac{1}{2}$ m.m. なり。種子は前種より廣し即長さ1 $\frac{7}{10}$ —2 m.m. 幅1 $\frac{3}{10}$ m.m. 甚不明瞭に且つ僅に皺起突起あり、褐色を呈す。

Ponape 島の森林に沿へる路傍に於て採集す。

Theobroma Cacao, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 87, 88; MER. G. 114; MER. M. 328; MACM. T. G. 469—476;

WINK. B. H. 256.

かかちのき 又は ちよこれいとのき

Ponape Palau 及び Yap の諸島にて島民の之を栽植せるを見たり。

THEACEAE つばき科

Eurya sp.

なんやうひさかき(新稱)

E. japonica, THUNB (ひさかき)に酷似せり、然れども、ひさかきの葉は稍楔形なるも、此種に似

1. japonica, HUNB (ひさかき)に酷似せり、然れども、ひさかきの葉は稍楔形なるも、此種にあ

りては橢圓形なること、又ひさかきに比して葉大なること、葉脈少ること等異なり。余の
得たるは雄本なりしが雄花の形態はひさかきと殆異なる所なし。

Palau 島彙 Koror 島の舊獨逸政廳附近の叢林中に生ず。

GUTTIFERÆ ざとざりぢら科

Calophyllum Inophyllum, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 221, 222; HOOK. F. B. I. Vol. I. 273, TR. F. C.

Vol. I. 100; MRE. G. 114; MR. M. 332; KOZ. V. J. 252; MACM. T. G. 540; WINK. B. H. 8; HAY. G. I.
F. F. 8.

やらぼ 又は たりはぼく

余等の巡遊せし凡ての島嶼に之を産す。

Garcinia Mangostana, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 234, 235; HOOK. F. B. I. Vol. I. 260; MACM. T. G. 164;

WINK. B. H. 125; KAW. S.

Mangosteen まんごすちーん

Ponape 島舊獨逸政廳附屬有用植物試植圃内に唯一本の若木の栽ゑられしを見たり。

Ochrocarpus sp. ?

屬名未詳。喬木。葉對生、革質無毛、甚厚し、橢圓形或は倒卵形、葉頂鈍圓、葉脚鈍にして少
しく狭まる、葉邊全緣、長さ25 c.m. 幅10—13 c.m. 中肋は葉裏に著しく隆起す、主なる側脈は始平
行、支脈は細く分れて網目狀となり、(anastomose) 其一個の網の目内に一個宛の油胞あり、葉
柄は太く強健なり、長さ2 c.m. なり、花、果を得ざりき。

Truk 島彙の Moen (春島) 及び Angaur の海岸に於て之を見たり。恐らく是れ *Ochrocarpus*
excelsus, VESQUE; MER. G. 115; KAN. 55. なるべし。

BIXACEÆ ぐじのお料

Bixa Orellana, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. 310, 311; Hook. F. B. I. Vol. I. 190; MER. G. 115; MER. M. 333; TR. F. C. Vol. I. 70; MACM. T. G. 503; WINK. B. H. 40; HAY. G. I. F. F. 6.

Ponape Palau 及び Yap の諸島に於て栽植せらる。

FLACOURTIACEÆ ぶぶざり科

Pangium edule, REINW.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. a. 23, 24; MER. F. G. 115; MACM. T. G. 310, 578; KAW. S.; WINK. B. H. 196.

ひぶらたんざり(新稱) Pangsi(ナンイ名)

Ponape Angaur Palau 及び Yap の諸島にて島民の栽植せるを見たり、前二島のは若木なりしが後二島にては盛に結實せるものを見たり。

PASSIFLORACEÆ とうけいざり科

Passiflora edulis, SIMS.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. a. 91; TR. F. C. Vol. II. 242; BATT. S. C. II. Vol. V. 2483, 2484; MER. M. 336; MACM.; T. G. 199, 408; WINK. B. H. 201; HAY. G. I. F. F. 30.

くだものとうけい 又は しよくようとうけいざり
Ponape 島及び Jaluit 島にて元獨逸人が栽培せしものを見たり。

Passiflora quadrangularis, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. a. 90; BATT. S. C. H. Vol. V. 2482, 2483; MER. 336; MACM. T. G. 180, 231; WINK. B. H. 201; KAW. S. 180, 231; とうけいざり(新稱)

Ponape 島の舊獨逸政廳境内に棚作に栽培せられしを見、又 Yapo 島にては島民の住家の籬根に纏へるを見たり。

Passiflora foetida, L.; Eebl. N. P. Teil. III. Abt. VI. a. 91; Hook. F. B. I. Vol. II. 599; Tr. F. C. Vol. II.

242; DN. F. K. H. 110; BAIL. S. C. H. Vol. V. 2486; MER. M. 336; WINK. B. H. 201.

ほうづきとけいさう(新稱)

一年生蔓性草本。莖は繊細にして、全面に毛を被る。葉は三つの裂片を有し、形状恰も通常の *Pharbitis hederacea*, CHOIS. (あさがお) の葉の如し、兩側の裂片は中央のものに比して小なり、葉邊は波狀に凹凸す、長さ 5—6 c.m. 幅 6—7 c.m. 葉に特殊の臭氣なし、葉柄は長さ 2—2½ c.m. にして蜜腺を有せず。托葉は小にして腎臟形、縁邊に長さ毛を有す、宿存性なり。枝の變形せる卷鬚を葉腋より出す、卷鬚は殆無毛なるか或は少しく毛あり。花は小にして徑約 4 c.m. 總苞三個美しく羽狀に分裂し、其の狀甚著しく、異臭ある粘液を分泌する所の長さ腺毛を有す、宿存性なり。萼片は五個、外面に各一個の距狀突起を有す。花瓣は五個、萼片と對生す、開花するときは萼片も花瓣も殆同大となり、色も同じく白色となる。櫛齒狀瓣 (corona) は繖狀にして其數三十本あり、殆花瓣と同長なり、基部は紫色を呈し、中程より上は白色なり。雌藥は短き雌藥柄 (gynophore) を有す。心皮は三枚、花柱は三裂す。熟したる果實は球形にして徑約 2 c.m. 橙黄色を呈す、平滑なり、果皮は薄く、種子約十乃至十五個を藏す、種子は稍扁平にして先端廣く基部狹し、頂端は矢筈形にして中央に突起あり、黒褐色にして皺あり、膠質軟柔なる灰色の假種皮 (arillus) を被る、此假種皮は甘酸相和し生食に適す。

Ponape 島にては舊獨逸政廳の有用植物試栽圃附近に遁れて自生狀を爲して蔓延せるを見たり又 Jaluit 島にてはジャルート會社員(獨逸人)邸宅の花菜園に栽培し Yap 島にては島民住家の籬に植ゑ小兒其實を喜びて食へるを見たり。

CARICACEÆ. ほんくわじゆ科

Carica Papaya, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VI. a. 95, 96, 98; Hook. F. B. I. Vol. II. 599; MERR. G. 116; MERR. M. 337; MACM. T. G. 146; WINK. B. H. 55; HAY. G. I. F. F. 30; KAW. M.

ほんくわじゆ(番瓜樹) 又は はばや(Papaya)

余等の巡遊せし凡ての島嶼に於て島民も他より來りて居住せる人も皆之を栽培せり。

CACTACEÆ. しゃぼてん科

Cereus sp. ?

莖は多少分枝し巨大なる成長をなす莖に四條の縱褶著しく隆起せり。花は黄色、果實は球形、赤熟し、徑 1.5 c.m. なり。

Jaluit 島の或る實業家の庭に植ゑらる。

Opuntia sp.

O. tuna, MILL.; Egl. N. P. Teil III. Abt. VI. a. 200 なるべしと思ひしが、斷定し難し。

Jaluit 及び Palau の兩島に於て島民の庭に栽植せられしを見たり。

Opuntia sp. ?

Angaur 島の民家の庭に植ゑらる。

Opuntia sp. ?

Yap 島の舊獨逸政廳、階段の側に植ゑらる、多數の扁平なる莖を分ち、高さ約 2 m. に達す。

PHYMELACEAE

ごんてうげ科

Wikstroemia sp.

なんえうさくらがんび(新稱)

灌木。高さ約 1—1½ m. 全體無毛、枝對生、黒褐色、強硬、幼枝は扁壓せられ葉痕著しく隆起す。葉對生、楕圓形或は卵形、葉頂及葉脚は鈍尖す、葉邊全縁、長 35—42 m.m. 幅 15—22 m.m. 中肋は表面に於て溝狀に凹入し裏面に於て凸出す、葉柄は短く長さ 2½—3 m.m. 上面に溝あり、葉は突隆せる葉枕 (Blatterkissen) を殘して脱落す。花序は頂生、或は腋生、長さ 2—7 m.m. 各花序の末端に三乃至五個の花を着く。花及果實を得ざりき。此植物は幾分 *W. retusa*, A. GRAY. (ちくらがんび) に近似せり。

Palau 島彙 Gomonotes の前の小嶼の岩礁上の叢林にて之を得たり。

LYTHRACEAE

みそはぎ科

Lawsonia inermis, L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VII. 15, 16; DN. F. K. H. 109; MER. G. 117; MER. M.

340; WINK. B. H. 163; HAY. G. I. F. F. 29; (*L. alba*, LAM. (= *L. inermis*, L.; TR. F. C. Vol. II. 228;) (= *L.*

inermis, ROXB; HOOK. F. B. I. Vol. II. 573; MACM. T. G. 393, 560, 574.) しかうくわ(指甲花)

Saipan 島に於て河野丑之助氏大正六年四月十八日開花せるものを採集せり。勿論

栽培品ならん。

Pemphis acidula FORST.; EGL. N. P. Teil. III. Abt. VII. 10; HOOK. F. B. I. Vol. II. 57; TR. F. C. Vol. II. 227; MER. G. 117; KOIZ. V. J. 252; HAY. G. I. F. F. 29.

みづがんび

余は Truk Jaluit Angaur 及び Palau の諸島に於て之を見たり其内 Jaluit 島に於ては最盛に成長し島民之を *Kumig* と稱し昔は其材にて棒を作り先端を尖らし椰子の實に孔を穿つに用ゐたりと云ふ。又河野丑之助氏は Saipan 島に於て之を採集せり。

PUNICACEAE.

ちんくろ科

Punica Granatum, L.; EGL. N. P. Teil. III. Abt. VII. 24, 25; HOOK. F. B. I. Vol. II. 581; MER. G. 118; MRR. M. 344; MACM. T. G. 118; etc.; HAY. G. I. F. F. 29; WINK. R. H. 210.

ちんくろ

河野丑之助が Saipan 島に於て採集せり勿論栽培品ならん。

SONNERATIACEAE.

まやぶしき科

Sonneratia alba, SMITH; HOOK. F. B. I. Vol. II. 580; TR. F. C. Vol. II. 230; EGL. N. P. Nachtrage zu II. IV. Teil. (1898.) 261; MATSUMURA, T. B. M. Vol. XII. 67; KAW. S.; [*Blatti alba*, [SMITH] O. Ktze; EGL. N. P. Teil. III. Abt. VII. 19, 21.)

まやぶしお

Truk Ponape Kusaie Palau 及び Yap 諸島の海岸ひるぎ林中に生ず此植物は我硫球の八重山群島にも産す。

LECYTHIDACEAE.

ちんくろ科

Barringtonia racemosa, (L.) BL.; EGL. N. P. Teil III. Abt. VII. 33; HOOK. F. B. I. Vol. II. 508; TR. F. C. Vol.

II. 189; MER. M. 346; MACM. T. G. 445; WINK. B. H. 38; HAY. G. I. F. F. 28.

おはらぢ 又は おがりほぢ。

Truk Ponape Kusaie 及び Angaur 諸島の海岸に近き處或は低濕なる森林に生ず。

Barringtonia speciosa, FOST.; EGL. N. P. Teil. III. Abt. VII. 32, 33; HOOK. F. B. I. Vol. II. 508; TR. F. C.

Vol. II. 189; KOZ. V. J. 252; MACM. T. G. 304, 441, 577; WINK. B. H. 38, (*B. asiatica*, (L.) KURZ.; MER.

M. 345.) 本島の諸島に生ずる しばんのあし

Truk Ponape Kusaie Jaluit Angaur 及び Saipan の諸島の海岸に生ず。

RHIZOPHORACEÆ. ひるぎ科

Bruguiera gymnorhiza, LAMK.; EGL. N. P. Teil. III. Abt. VII. 54; HOOK. F. B. I. Vol. II. 437; TR. F. C.

Vol. II. 153; DN. F. K. H. 103; KOZ. V. J. 252; WINK. B. H. 45; (*B. conjugata*, (L.) MER.; MER. G. 118.)

やひるぎ 又は あかばなひるぎ

Truk Kusaie Yap 及び Saipan の諸島の海岸に於て所謂ひるぎ林を構成す。

Rhizophora conjugata, L.; EGL. N. P. Teil. III. Abt. VII. 48, 52; HOOK. F. B. I. Vol. II. 436; MER. M. 347;

(*R. candelaria*, DC. [= *R. conjugata*, ARN.] TR. F. C. Vol. II. 151; = *R. conjugata*, AUCT.; MER. G. 118.)

やまひるぎ(新稱)

Truk 島及び Ponape 島に産す余の見たるは何れも海岸よりは多少距りたる丘陵地の

森林中に於てなりと所謂 Prop-roots も根際の少しく上より少数出づるのみ、惟ふに此

植物は次の種即ち *R. mucronata*, LAM. と混じて海岸にも生じ居たるを余の心付かずし

て唯ひるぎ林に非ざる所に孤生せる者のみを認めたるならんか。

Rhizophora mucronata, LAM.; EGL. N. P. Teil. III. Abt. VII. 52; HOOK. F. B. I. Vol. II. F. C. Vol.

II. 151; MER. M. 347; MER. G. 119; MACM. T. G. 555; WINK. R. H. 223; HAY. G. I. F. F. 28.

おほほひるぎ 又は しろばなひるぎ

Truk Ponape Kusaie Palau 及 Yap の諸島に於てひるぎ林を成せる最主要なる植物なり。

COMBRETACEÆ しくんし科

Lumnitzera coccinea, WRIGHT et ARN.; EGL. N. P. Teil. III. Abt. VII. 129; HOOK. F. B. I. Vol. II. 452; TR.

F. C. Vol. V. 385; (*L. littorea*, [JACK.] VOIGT.; MER. G. 120.) あかばなのひるぎもぎ(新稱)

Truk 島彙 Moen (春島) のひるぎ林中に繁茂す。

Terminalia Catappa, L.; EGL. N. P. Teil. III. Abt. VII. 116, 118; HOOK. F. B. I. Vol. II. 444; MER. G. 119;

MER. M. 349; MACM. T. G. 186, 315; WINK. B. H. 253; KOZ. V. J. 253; HAY. G. I. F. F. 28.

こはていし 又は ももたまな

余等の巡りし各島嶼の内 Yagi 島を除く他の凡てに於て之を見たり、勿論 Yagi 島にも産するなるべし。

Terminalia sp. あかみのこはていし(新稱)

余は海濱に於て灌木状のものを唯一本見しのみなるが或は喬木ともなり得べきものか、葉互生倒卵形、葉頂鈍圓、葉脚は漸次狭まりて其端は圓さか或は僅に心臟形に入り込む、葉邊は全縁或は僅に波状の凹凸あり、無毛、長さ 10—16 cm. 幅 7—11 cm. 葉柄は長さ 12—18 cm.

なり、*T. Galappa*, L. (こはていし)に於けるが如く小枝の末端は約十枚乃至十枚の葉を呈す。花序は腋生にして短く、花は小く徑約2—2½ m.m. なり、白色を呈す。果實は漿果、卵形或は橢圓形、長さ13 m.m. 熟すれば外果皮鮮赤色(scarlet)を呈す。

余は之を Jambit 島叢中の Enibor 島の一ヶ所に於てのみ見たり、花、果共に少量得たれども、需に因り花は悉く小泉理學博士に送りしを以て、今茲に花の記載を掲ぐるを得ず、是れ *T. litoralis*, SEMM.; KOZ. V. J. 253 か或は *T. Saffordii*, MER.; MER. G. 119. なるべし。

MYRTACEÆ.

てんにんくわ科

Decaspermum paniculatum, KURZ.; *Earl. N. P. Teil. III. Abt. VII. 70*; *Hook. F. B. I. Vol. II, 470*; *MER. G. 120*; *HAY. G. I. F. F. 28*.

かうしゆんつげ 又は もちあてく

余は Yap 島の丘陵地に於て開花せるものを得たり。河野丑之助氏は Saipan 島に於て大正六年五月十日花なきものを採集せり。

Eugenia *Anteugenia*, Subsect. *Anteugenia*, *Ndzu. & Umbellatæ*, *Berg.* Sp.

みきなりこりんご(新稱)

山林に生ずる小喬木。葉は對生革質、光澤あり、橢圓形、或は卵形、葉頂漸尖、葉脚圓く、葉邊全縁、葉身は多數の細微なる油胞散在せり、長さ12—19 c.m. 幅5—1½ c.m. 葉柄は太短く、表面稍栓皮質、長さ1 c.m. なり。短き繖房花序は古き太き枝或は幹より直接に生じ所謂莖生花

(cauliflory)の現象を呈す。花は採集するを得ざりき。假果は漿果狀略球形、徑2—1½ c.m. 頂端截形(truncate)にして頂上に徑5—7 m.m.の圓形の窪みあり、此窪は四個の宿存の萼片を以て圍まる、中央より短き花柱突起す。果梗と萼筒とは明に區劃す。果梗は多肉なる萼筒の底に嵌入せること恰、苹果に於けるが如し、假果の外皮は平澤あり。熟すれば濃血赤色(deep crimson)となる。屢、數十個宛主幹の途中に集合す、せにして且つ奇觀なり。完熟すれば果肉は甘酸度に適し甚美味なり。

Ponape 島の山林中に自生す。惟ふに E. Thompsonii, Merr. に甚近似せるものなり。果實は以て食卓の珍とすべく、又多量に採集してジャムを製造せば頗る可ならん。

Eugenia (Unterगत. Eriugenia, Subsect. Anterugenia, Ndz. s. Uniflorae, BERG.) Sp.

きんちやくつばき(新稱)

海濱の石灰質の岩礁上に生ずる小喬木なり。葉は對生其形狀、大さ及外觀等我内地産のつばきの葉に酷似せり、然れ共葉邊はつばきと異り殆全縁なり。長さ7—8½ c.m. 幅3—4 c.m. 葉柄は短く4—7 m.m. なり。花梗は腋生し長さ1½—2½ c.m. 唯一個の花を着く。花は採集するを得ざりき。假果は乾燥質にして平滑、徑8 m.m. 頂端に四個の大なる宿存性の萼片を有し、外觀恰も巾着に彷彿たり、萼片は長さ6 m.m. 幅8½ m.m. あり、果實は羊皮質の壁膜によりて二室に分隔せらる、各室に一個の種子あり。種子は比較的大にして半球形、徑7 m.m. 厚さ5 m.m. 種皮は羊皮質にして平滑褐色を呈す。

Palau 島羣 Gomotes 島前に基布せる小嶼の石灰質の岩礁上に自生す。E. Oshimadae

Merr. Merr. G. 123. は或は是れならんか。

MER.; MER. G. 123. は或は是れならんか。

Eugenia sp.

かきばあてく(新稱)

中或は大喬木。葉は對生、革質、平滑、卵形、葉頂鈍尖、葉脚圓し、葉邊全緣、表面光澤あり、葉柄甚短く、強硬にして長さ10—15 c.m. 幅8—9 c.m. なり。圓錐花序は頂生或は腋生、四五回分岐す、花は小形、多數に着生す、徑約5 m.m. 萼は殼斗狀、花瓣は四枚圓形、平滑、白色。雄蕊は多數、花柱は分岐せず、柱頭は鈍尖す、滿開の花及果實を採集するを得ざりき。

Penape 島の森林に自生す。是れ惟ふに *E. carolinensis*, KOZ.; KOZ. P. N. M. (T. B. M. Vol.

XXX. No. 360 p. 420) か或は *E. ponapensis*, MER.; KAN. 57 ならんか。

Jambosa malaccensis, (L.) DC.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VII; 84; (*Eugenia malaccensis*, L.; Hook. F. B. I.

Vol. II. 471; Tr. F. C. Vol. II. 170; MER. M. 352; MER. G. 121; Macq. T. G. 160; WINK. B. H. 155;

HAY. G. I. F. F. 29; KAW. S.

まれんむとも (HAY. G. I. F. F. 29) 又は なんやうりんご(新稱)

Malay-apple.

Ponape 島の上流島民の邸宅及び舊獨逸政廳門前の大道の傍に植ゑられしを見たり。

Jambosa sp.

はまれんむ(新稱)

海岸或は森林中に生ずる中喬木。葉は對生、平滑、革質、卵形、楕圓形、或は卵圓形、葉頂漸尖、鈍尖、或は殆圓形、葉脚は圓く、或は稍心臟形に入り込む、葉邊は全緣、長さ18—25 c.m. 幅7½—12 或は16 c.m. 時としては21½ c.m. のものもあり、葉柄短くして強剛、表面稍、栓皮質となる、長さ9—

15 m.m. なり。總狀花序は頂生或は腋生し花の數少し。花は徑概ね $2\frac{1}{2}$ c.m. 萼筒は西洋獨樂形をなし基部は漸狹して小花梗 (pedicel) と同じ大さとなる而して之れと小花梗との間には一つの關節 (joint) あり、萼筒の長さは 22 — 27 m.m. 萼片は四個半圓形にして縁邊は皮膜質となる、長さ 5 m.m. 幅 10 m.m. なり。花瓣は四個、四個、縁邊は圓く皮膜質となり基部は肥厚す、白色にして甚細微なる油胞散點せり、長さ 12 — 14 m.m. 幅は最廣き所にて 13 m.m. なり。雄蕊は多數、雌蕊は厚く堅き萼筒内に埋在し四室よりなる、各室に約十個宛の胚珠在り花柱は分岐せずして萼筒の頂上の盆狀部の中央より長く抽出す、長さ $2\frac{1}{2}$ — $3\frac{1}{2}$ c.m. なり、假果は漿果狀ならず成熟せるものを觀察するを得ざりき。

Angaur 島の海岸の崖上に自生す。

Psidium Guyava, L.; Hook. F. B. I. Vol. II. 468; Tr. F. C. Vol. II. 167; Dn. F. K. H. 140; MACH. T. G. 183; HAY. G. I. F. F. 29; (*P. Guyava*, L.; MER. G. 124; MER. M. 353; *P. Guayava*, RADDI, Egl. N. P. Teil. III. Abt. VII. 68, 69; WINK. B. H. 218. **ばんじらう**(蕃石榴)

Kusaie 及び Saipan の兩島にて栽植せられしを見たり。

所屬未詳 (*Jambosa* or *Eugenia*)

小喬木 Truk 島彙中 Moen (春島) の島民部落内に唯一本植ゑられたるを見たるのみ。

聞く所に依れば果物の目的にて栽培せるものなり。葉は對生、稍革質、平滑、殆無柄、橢圓形、披針狀或は楔形をなす、葉頂は鈍尖し或は圓し、葉脚は楔狀に狭まり葉柄にまで延び、爲に固有の葉柄は殆存在せざる觀あり、若し葉柄存する場合と雖、甚短く 2 m.m. に過ぎず、葉邊は

全縁或は少し波状に出入す長さ11—12 c.m. 幅4—5 c.m. 側脈の主なものは約十五對兩邊に沿ひて稍内方を走る脈あり各側脈は皆此縦走脈に合す。枝は平滑なり。花及果實を採集するを得ざりき。産地は始めの説明の如し。

MELASTOMACEAE

のぼたん科

Melastoma sp.

しろばなのぼたん(新稱)

灌木。莖は對生して分岐せる多數の枝を有し其表面は披針狀の扁平なる硬き毛を被る、毛は相重りて上に向ひ莖の面を掩ふ。葉は對生、卵形或は披針狀、葉頂尖り、葉脚圓く、葉邊全縁、五本の明瞭なる縦脈を有す、長さ3—7½ c.m. 幅12—30 m.m. なり表面には上方に向ひ葉の面に沿ひて生ずる多數の硬毛あり、裏面に於ては葉脈の太きもの程幅廣き硬毛重り生じ、支脈の細きものには從つて細き毛を生じ又脈の間隙には更に細小なる毛を生ず、葉柄は6—8 m.m. にして幅廣く短き毛を被る。要するに莖葉の狀頗る *M. candidum*, Don. (のぼたん) に酷似せり。花序は小枝に頂生し、二乃至五花を着く、花梗及花の萼筒には披針狀の扁平なる毛厚く重り生ず。花は徑約3 c.m. 萼筒は略球形にして徑5 m.m. 萼片は五枚、短披針狀頂端稍急尖し基脚少しく狹まる、長さ4 m.m. 幅2—2½ m.m. 外面には毛多く裏面にも少しく生ず、脱落性なり、花瓣は五枚、萼片と互生す、倒卵形、頂端は廣く截形にして其兩角は圓みあり、基脚は漸狹す。白色或は少しく淡紅色を帯び。雄蕊は十本、其内五本は比較的長く全長7 m.m. 葯の長さ2 m.m. 花絲には葯より1½ m.m. 許下方に一對の腎臟形の突起物あり、他の五本は

短く全長 5 m.m. 葯の長さ 1½ m.m. 葯の基脚に接して一對の腎臟形の突起物あり。子房は中位にして表面は毛を被る、花柱は一本、長さ約 7 m.m. 心皮は五或は六枚中央に集り胎座は更に周圍に向ひて突出し之れに各室共に多數の胚珠を着く。種子は微細にして長さ約 7/10 m.m. 稍半環狀に彎曲し扁平なり、色は淡黄色乃至灰色にして表面に極めて細き點狀突起物配列せり。

Palau 及び Yap の兩島に於て丘陵又は草原に生ず。

Melastoma sp.

灌木。莖、葉、身葉柄等各種の點に於てのぼたんに酷似す。葉は紡錘形、葉頂も葉脚も鈍尖し、葉邊全緣長さ 6 | 11½ c.m. 幅 2½ | 4½ c.m. 大なる縦脈三本あり、尙細き稍不明瞭なる脈各一筋葉邊に接近して走る。のぼたんに於ては大なる縦脈五本にして不明瞭なる脈一對なり是れ此種と異なる點の一なり。花序は頂生或は腋生、四乃七個の花を着く、花梗及萼筒に厚く扁平なる毛を被ること前種の如し、花は徑約 3 c.m. 萼筒は徑 7 m.m. 高さ 6 m.m. 萼片五枚、披針狀先端尖り基部の少し上に於て狭まり基脚は再び廣がる、長さ 6 | 7 m.m. 幅 2 m.m. 表に毛多く裏は中央殆平滑にして其餘には薄く毛を生ず。花瓣五枚、窠形或は倒三角形、頂端截形、圓味あり基部急に狭し長さ 13 m.m. 幅最廣き所にて 10 m.m. 淡紅紫色を呈す。雄藥は十本、其内にて萼と對生せる五本は比較的長く全長 17 m.m. 葯は孤狀に彎曲し長さ 6 m.m. 葯隔 7 m.m. 許、下方に延び出づ、葯と花絲との接せる所に於て内方に先端二ツに分れたる長さ 1½ m.m. の突起物を生ず、花瓣と對生する他の五本は短く全長 11 m.m. 葯の長さ 5 m.m. 花絲と接する所の内

方に一對の腎臟形の突起あり。子房は中位、表面に毛を密生し、花柱は一本、長さ約6 m.m. 子房は四乃至五室よりなり、各室に多數の胚珠あり。種子約 $\frac{1}{2}$ m.m. 黄白色、稍扁平、彎曲して半環狀を呈す、表面に極めて細微(肉眼にては認め難し)なる點あり。

Ponape 島の山林、原野に自生す。

GENOTHERACEÆ

あかばな科

Jussiaea suffruticosa, L.; Hook. F. B. I. Vol. II. 587; Tr. F. C. Vol. II. 233; Dn. F. K. H. 110; Mer. M. 356;
Macm. T. G. 320, 393; Hay. G. I. F. F. 30; (*Jussiaea suffruticosa* L.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VII. 207;
Kaw. M.) おださきんぼ

余等の巡りし諸島の内 Jaluit を除く他の凡てに於て之を見たり。

HALORRHAGACEÆ

ありのとうぐさ科

Haloragis tetragina. Hook. f.; Hook. F. B. I. Vol. II. 430; Dn. F. K. H. 102

たちありのとうぐさ(新稱)

一年生(?)草本高さ四五 c.m. に至る、多少分枝す、莖は稍、方形を爲し、紫褐色にして全面に短き硬毛を被り、恰も鏽の如き觸感を與ふ。葉は殆無柄にして對生し、披針狀或は長卵形にして頂端鈍尖し、葉脚は圓く、葉邊には淺き鋸齒あり、表面には鮫膚の如く、硅質の白點密に散布し、爲にむくの葉に於ける如く極めて粗糙なり、裏面には白點なきも硬毛散(まばら)に生ずるを以て同じく粗糙なる觸感を與ふ、中肋の他は葉脈殆表はれず、葉の長さ一、五—二、〇 c.m. 幅平均七 m.m. なり。莖及び枝の上部は全體にて各一つの圓錐花序を成す、即頂上に寄りたる

節の葉腋より枝を抽出し其枝の各節の葉腋より更に小枝を出す其小枝が粗なる穗状花序を爲す、花は極めて短き花梗を有し一—二 m.m. の間隔を保ちて着生す、各花の着点には小き苞葉を有す、花は微小にして長さ一、五 m.m. 徑〇、七 m.m. に過ぎず、兩性花なり、萼筒は橢圓形にして四稜あり各稜に二列宛の疣状突起あり、上部には四個の堅き萼片を冠す、萼片は卵形淡黄色にして内方に彎曲す。花瓣は四個、淡綠色、外套の頭巾の如き形を成し雄蕊の葯を掩ふ、其背部には獸爪の如く上方に彎曲せる剛毛生ず。雄蕊は八本、花絲極めて短く、殆葯は座生じり、葯は比較的長く二胞より成り縦裂す、葯は概ね二個宛花瓣に包まる、花柱は四本、柱頭は叢房状を成し、花後柱頭は外方に向ひ、宿存性の萼片の間より露出し、紫色を呈す。

Palau 島彙の内、Koror 島の守備隊本部に近き畑地に自生す。

ARALIACEAE. たらのき科

Meryta sp.

はなぐしやつて(新稱)

灌木或は小喬木ならん 余の見たるは若木にして高さ約2½ m なりき。無毛、枝比較的少し。葉は互生し單葉、掌状を呈し裂片の數、多くは七個、裂片の頂端は鈍にして急に鋭尖す、葉邊には淺き鋸齒あり、鋸齒の先は鋭し、葉脚は稍、心臟様に入り込む、葉質はやつての如く厚からず稍、薄くして軟質なり、葉身の長さ20—25 c.m. 幅23—30 c.m. なれども尙夫れより遙に大なるもあり、葉柄の長さは葉身と略、同様なり、葉柄の基脚は幾分廣くなれりと雖著しく莖を抱くことなし。花序は頂生、或は腋生、三回複繖形花序なり。第一次の花梗の端より十數本の枝、繖形に出で、第二次の花梗となる、第二次の花梗は長さ約4 m. 其端に一對の

厚き苞葉あり其中央より短き花梗(長さ5 m.m.)を有する一個の繖形花序を抽出す、此花序には各一個の苞を有する十九乃至二十個の花を生ず、余の得たる標本にありては此花序に於ける花は盛を過ぎ既に熟したる果實となれるものなりき、故に此部分に於ては果實に就きてのみ記載すべし、子房下位にして果頂には僅に齒状をなせる五個の不明瞭なる萼片の痕跡と其中央に臍の如くして突出せる柱頭の遺跡を表はす、果實は扁球形にして徑7 m.m. 高さ5—6 m.m. 外皮平滑熟すれば黒紫色となり光澤あり、心皮は五枚なるべきも室は退化の爲め二乃至三室となれり、心皮極めて厚く子房の室は唯中央に埋存せるのみ、果梗は長さ10—13 m.m. 基脚に苞葉存せり、種子は各室に一個宛懸垂し、何れも發育不完全にして標本的のものを得ざりき。第二次花梗の端に存する一對の苞の腋より各一本の第三次花梗を抽出す、花梗の基脚より上方15 m.m. 程の所に於て一對の苞あり、其の苞より上方約6 c.m. の所に於て頭状花序を以て終る、此花序には八十五個の雄花球状に聚團す。余の得たる標本にありては此花序の花は猶未開の状態なりき、花梗は甚短く花托と引續きに洋獨樂形に漸狭し眞に花梗と稱すべき部分は1 m.m. に過ぎず、基脚に一枚の膜状の苞あり、萼は缺如せり、花瓣は五枚なるが堅く癒合して一個の鈍頭楕圓形の帽状體を爲す、頂部には明かに五條の癒合線表はるれど中部以下には其痕跡もなし、雄藥は五本、藥は長さ二個の花粉囊よりなり橙黄色を呈し甚美麗なり、花絲は藥の半ばより稍上方にて着生し、藥と斜丁字状をなす、花托の中央に五出の星状をなせる雌藥の頂部顯はる、恐らく是れ蕾に退化器關たらんか、或は兩性花にして第二次花梗の上の果實の如く成熟するものか、又第二

次花梗上の果實となりし花は單性花(雌花)なりしや、或は兩性花なりしや、斷じ難し、第二次花梗には紫色に熟したる果實あり、其上の第三次花梗上には橙黄色の花あり、其對照頗美麗にして裝飾的なり。

Palau 島羣 Koror 島の島民の庭に觀賞の爲栽植せり、島民之を Gulhamur と稱す。

Nothopanax cochleatum, (LAW.) Miqu.; MER. M. 357; MER. G. 126; (*N. cochleatus*, DC.; EAT. N. P. Teil. III.

Abt. VIII. 4; *Panax cochleatum*, DC. (*N. cochleatum*, MER.) BAIL. S. C. H. Vol. V. 2748.)

わかづきばのたらのき(新稱) Soucer leaf 又は Shell leaf.

Jaluit 島及び Yap 島の元獨逸人の住みし邸に於て生籬又は庭木として栽植せらる。

Nothopanax fruticosum, (L.) Miqu.; MER. M. 357; MER. G. 125; (*Polyscias fruticosa*, [L.] HARMIS; EAT. N. P.

Teil. III. Abt. VIII. 45; BAIL. S. C. H. Vol. V. 2747; *Panax fruticosum*, L.; HOOK. F. B. I. Vol. II. 725;

TR. F. C. Vol. II. 282; MACM. T. G. 118, 326, 443; HAY. G. I. F. F. 33.)

はごろもたらのき

Trunk Ponape Jaluit 及び Saipan の諸島にて觀賞の爲栽植せらる。

Nothopanax guilfoylei, (COGN. et MARCH.) MER.; MER. M. 357; MER. G. 126; (*Polyscias Guilfoylei*, BAIL.; BAIL.

S. C. H. Vol. V. 2747; *Aralia Guilfoylei*, BULL.; MACM. T. G. 118, 325.)

常綠灌木、無毛。葉は奇數一回羽狀複葉、概ね四對の小葉對生す、葉軸の基脚は擴がりて莖を抱く、全長約 30—40 c.m. 葉軸は小葉の各着點に於て關節を有す、小葉は圓形、卵形或は楕圓形にして下方の小葉は圓く上方に至るに従ひて長し、葉頂は鈍尖し、葉脚は略々圓く葉

邊には大なる鋸齒あり、上方には缺刻を生ずる傾向を有す、長さ5—12 c.m. 幅5—7.5 c.m. 葉質
 稍厚く軟かなり、濃緑にして光澤を有す、小葉柄は長さ1.2—2.0 c.m. なり。花序は全體は圓錐
 花序を成し小枝の末端に於いて15—20個の花、繖形に着生す、但し屢々繖形の中心を外れ
 たる下方に1—2個の花を有することあり、花序の軸は關節を有せず、枝の出方は不規則
 にして或は一本宛或は三—四本接近して正しく一つの節より繖出するにあらず、生ず、各
 枝の基脚には皮膜質の苞あり。花は徑2 m.m. 餘にして花梗は約3 m.m. なり、花と花梗との間
 には關節あり。萼筒は椀形にして弛き五稜あり、上部は擴がりて椽狀を成し其縁は波狀
 に凹凸す。花瓣は五個、鑷合狀但し上部は少しく覆瓦狀をなせる傾向あり、若きときは頂
 部にて固く合着し、帽狀物を形成せり、熟すれば下端にて容易に離れ且つ瓣は互に下方よ
 り漸次上方に分離し得、花瓣は長卵形にして長さ3 m.m. 幅1.5 m.m. なり。雄蕊は五個、花瓣と互
 生す、葯は内向し細長く長さ2 m.m. なり、二胞にして縦裂す、黄色を呈す、花糸は葯の裏面の中
 央に着生す、長さ約1 m.m. なり。花柱は三本にして根元まで全く分れ、互に密接して直立す
 長さ約1.5 m.m. なり。

Jaluit 島、元獨逸人の住宅の庭に栽植せらる。

Nothopanax sp. (N. Guilfoylei, Merr.?)

かはりばたらのき(新稱)

常綠灌木、無毛、光澤あり。奇數一回羽狀複葉、八對の小葉對生し、其各着點に關節あり、全
 長60 c.m. 餘、小葉は長橢圓、卵形、披針狀等にして大小様々の深き缺刻あり、葉形萬化極りなし
 缺刻なき部分及び缺刻の裂片にも小き鋸齒あり、葉脚は圓く或は漸を以て狹まる、葉頂及

び裂片の先端は鈍尖す、小葉柄あり長さ平均 2 c.m. なり。花竝に果實を得ざりき。

此植物は前種と同種なるべし、葉形極めて變化し易きものなり、Tahiti 島の元獨逸人竝に島民の居宅の庭木或は生籬として栽植せらる。

Polyscias sp. (*P. grandifolia*, Volk. ?) **てりはたらのき(新稱)**

灌木、余の見しものに在りては高さ 1.5 — 2.0 m. なるが尙幾分高く成長するものなるべし、莖、葉共に無毛、莖は多少分枝す。葉は互生し、鮮綠色にして光澤あり、奇數一回羽狀複葉、葉軸の全長は 15 — 35 c.m. 小葉は三 — 四對、對生し、葉軸は小葉の各着點に於て關節を有す、小葉は長卵形或は橢圓形、葉頂少しく尖り、葉脚は圓し、葉脚は屢々左右不揃となる、葉邊には細く短き鋸齒あり、葉質稍厚く軟かなり、長さ 10 — 15 c.m. 幅 5 — 6.5 c.m. 小葉柄は短く僅に 2 — 3 m.m. なるか或は殆無柄のものあり、但し最端の小葉柄は特別に長くして往々 1 — 2 c.m. に至るものあり。花序は六 — 七回複繖形花序にして各關節より概して三本の枝を射出し、其内一本は殆常に他のものより優勢なり、故に一見圓錐花序の觀あり、全長約 40 c.m. 各關節には略々三角形を成せる二枚の苞あり、最端の枝の末端に五 — 八個の花を生ず。萼筒は洋獨樂形、縁は襟卷狀に褶あるのみにて萼片發達せず。花瓣は四個鑷合狀に配列す、略々椎實形にして末端鈍尖す、長さ 2 m.m. 幅 1.2 m.m. 淡黄色を呈す。雄蕊は四本、花瓣と互生す。子房は萼筒中に埋れ在し、二本の花柱を抽出す。花柱は直上し、基部太く末端に向ひて漸次狭小す。果實は兩面より扁壓せられ略々方形、果頂僅に凹み、萼筒の縁及び花柱は宿存す、花柱は基部より二方に分れ外方に彎曲し蛾眉狀を呈す、果底は殆截形を成し、果梗との間には不

明瞭なる關節あり、平均幅 5.5 m.m. 高さ 5 m.m. なり、兩面に隆起せる縦脈は明瞭ならず、多少曲縮し、面に皺あり、果梗の長さは平均 4 m.m. なり。

Truk 島彙の内 Flea (竹島) の叢林中に自生す。

Polyscias sp.

おほばたらのおき(新稱)

灌木、高さ 2 m. 餘、莖葉共に無毛、多少分枝す、莖には縦に長さ皮目密に分布せり。葉は互生し、濃綠色にして光澤あり、奇數一回羽狀複葉、葉軸の全長 20—40 c.m. 其基脚は擴がりて半ば莖を抱く、小葉は三—四對對生し、葉軸には各小葉の着點に關節を有す、小葉は長橢圓形、葉頂鈍尖し、葉脚圓く、唯少しく小葉柄に向ひて延び狭まる、葉邊は多くの場合は殆全縁なるが或は少しく波狀を成し、或は微に鋸齒の表はるゝものあり、葉質稍々多肉、軟かにして光澤あり、小葉は長さ 9—14 c.m. 幅 5—7 c.m. 小葉柄は短く平均 1 c.m. に過ぎず。花序は七回複繖形花序なるが或る節に於ては是れより出づる四—六本の枝の内一本は残りのものより優勢にして長く直上する特性を有すること多く且つ或る枝にては小枝繖形に出でずして互生せる部分もあり、故に全花序は一見繖形花序の外貌なく却て圓錐花序の如き觀あり、各枝の着點の下には披針狀の少き苞葉ありて永く殘存す、花序は頂生或は腋生し、全長約 70 c.m. に至る、花序の小枝の端に八本内外の小花梗繖生す、其長さ平均 6 m.m. なり。果實は兩面より扁壓せられ、扁圓形にして果頂及果底凹めり、面に隆起せる五本の大脈あり、果頂には宿存せる二本の短き花柱外方に彎曲せり、果實の幅 5.5 m.m. 高さ 4 m.m. なり、果底と果梗との間に明瞭なる關節あり、果梗は長短あれども平均 5 m.m. なり。花を得ざりき。

此植物は前種と異なる點は、(一)小葉の殆全縁なること。(二)花序の枝の基脚にある苞葉の小なること。(三)果實の果底凹み、且つ高さ低きこと。(四)花柱の突出著しからざること(五)果面平滑にして大なる縦脈の外には皺なきこと等なり。

余は Angaur 島の叢林中に於て之を採集し、河野丑之助氏は Saipan 島に於て大正六年五月二十日之を採集せり。

Polyscias sp. ?

常線灌木、高さ 2 m. 餘、無毛。葉は互生、奇數一回羽狀複葉、四—五對の對生せる小葉と末端に一個の小葉とを有す、葉軸には各小葉の着點に關節あり、全長 60 c.m. に至る、小葉の形狀は前種に似て卵形或は長橢圓形、葉頂鈍尖し或は銳尖し、葉脚圓く、葉柄に移る所にて左右喰ひ違ふ、葉邊には微小なる鋸齒あり、葉は稍厚く軟質、濃緑にして光澤あり、長さ 13—20 c.m. 幅 5—9 c.m. に至る、小葉柄は短きは 3 m.m. 長きは 17 m.m. なり。花序は完全なる標本を得ざりしを以て此種の特性として記載するを得ずと雖も、余が得し標本に就きて假に記述せん、花軸は基脚に近き所より七本内外の枝を繖出し、其枝は二—三の關節を有し、其關節より長さ僅に 1 m.m. 内外の短枝狀の枝を出す、下方の各關節よりは一—二本の枝を出すのみなるが最端の關節よりは五本内外の短枝を繖出す、短枝には關節なく其上には數個の短節ありて鱗片を以て包まれたる芽及び果實或は果梗の脱落したる痕跡と認めらるゝものあり、又短枝の頂上には果梗と認むべきもの殘存せり、各枝及び芽の基部には三角形の苞を有す。既に花も果實も脱落せる後なるを以て之を檢定するを得ざりき。

Krisaie 島彙 Lelo 島の城砦の遺跡内の雜木として自生せり。

Schefflera (Sect. *Cephaloscheffera*, Harms.) sp. (Sch. *actinophylla*, (Endl.) Harms.?)

きのぼりふかのき(新稱)

攀緣性、喬木。葉互生、六枚の小葉よりなれる掌狀複葉、革質無毛。小葉は卵形或は橢圓形、葉頂銳尖、葉脚圓形或は少しく鈍尖す、葉邊全緣或は粗鋸齒あり、長さ10—17 c.m. 幅5—9 c.m. 小葉柄は長さ2½—7½ c.m. 葉軸は長さ11—45 c.m. 基脚は托葉と癒合して廣くなり莖を抱く花序は頂生、二回分岐せる總狀花序をなす、其小枝の端に十個宛頭狀に聚合せる無柄の花あり、小枝の基部には脱落性の苞葉あり、苞葉は披針狀先端鈍く漸尖、星芒狀の微毛密生す、全花序の長さ約70 c.m. 第一次の枝は約25 c.m. 第二次の枝は約8 m なり、花は兩性、無柄、各個に宿存性の四枚の苞を有す、苞は個々分離し、覆瓦狀に配列す、略半圓形にして縁邊稍薄くなり、萼を缺く。十個の花弁は全く癒合して鈍尖卵形の帽狀體をなし成熟せる者は其縫目は頂部に於て稍認め得るも下方大部分に於ては不明瞭なり、瓣の裏面には雄藥に當て簇る褶線あり又裏面の頂點には傘の轆轤様の突起あり、是れも雄藥の葯の上に當て簇まる様巧に彫刻せられたる如くなれり。雄藥は十乃至十一本、葯は細長さ二個の花粉囊よりなり、長さ約2 m.m. 花絲は甚短く½ m.m. に過ぎず。雌藥は十乃至十二個の心皮よりなる、花柱は合一して短き圓錐狀の突起となる、子房の室は心皮と同數なり、子房下位にして其大部分は頭狀花序をなせる花の集合體中に埋れ、他の表はれし頂部は褶皺によりて其心皮の數を表はす。種子は未熟の爲め觀察するを得ざりき。

Truk 島彙の諸島嶼 Angaur 島及び Palau 島の叢林には多く自生せり、又 Taimi 島の元獨逸人居宅の庭園に栽植せられしを見たり。

UMBELLIFERÆ 繖形科

Centella asiatica, (L.) URB.; Egl. N. P. Teil. III. Abt. VIII. 119; MER. M. 360; MER. G. 126; (*Hydrocotyle*

sitchica, L.; HOOK. F. B. I. Vol. II. 669; TR. F. C. Vol. II. 276; DN. F. K. H. 116; MACM. T. G. 596;

HAY. G. I. F. F. 32; KAW. M.

Truk Ponape Kusaie 及び Palau の諸島に生ず。

MYRSINACEÆ やぶからし科

Ardisia (Untergatt. *Teacorea* od. *Pickeringia*) sp. *びばばまんりやう*(新稱)

灌木、鬱林中に生ず、高さ約 1.5 m. に達するも、あり分枝少し、莖は無毛にして鐵銹色を呈す。葉は互生、單葉、倒披針狀、葉頂は鈍尖乃至稍々銳尖す、葉身は中央より漸次狹まり楔形を成し、葉脚に至り、銳く尖る、葉邊は殆全縁或は稀に上方に於て淺き大牙狀の出入あることあり、長さ 21—34 c.m. 幅 5 c.m. — 8 c.m. なり、葉は稍々多肉にして、軟質なり、表面暗濃綠色にして裏面は淡く、中肋は裏面に隆出し、紫褐色を呈す、葉柄は太く短く多肉にして長さ 8 m.m. — 20 m.m. なり、鐵銹色を呈す。花序は腋生、初めは無柄にして其頂に苞葉を以て包まれたる芽を有す、芽開けば苞葉の腋より枝を出す、其枝は或は直に花序となり或は更に第二、第三の花芽となる、花序は總狀花序にして多少複總狀花序となれる部分もあり、花枝は側方に花序を分岐しつゝ頂に向ひて引續き延伸す。萼片は五個、覆瓦狀、下方合着す、宿殘性にして

果實の底に蒂狀を爲し果梗と離れ難し、紫褐色の點を有す。花瓣は四個覆瓦狀に配列す、四個の花弁と互生せる假雄蕊あり、余の得たる標本に於ては花は皆幼稚なる蕾なりしを以て以上の諸點の他は觀察するを得ざりき。果實は球形にして頂端少しく尖る、乾燥すれば縦に多數の皺を生ず、徑7 m.m. 高さ8 m.m. なり。

Ponape 島及び Palau 島の叢林内に自生す。

Maesa sp.

おほばいつせんりやう(新稱)

灌木、余の見しは約2 m.の高さなりき、葉、莖共に無毛、若き莖は紫褐色にして淡褐色の小なる皮目多數に散在せり。葉は常緑互生、質厚く軟かなり、倒卵形或は橢圓形にして葉頂は多くは圓く或は稀に少しく急に鈍尖す、葉脚は漸次狹まり、葉柄に移る、葉邊は殆全椽なれども多少波狀の出入あり、深緑なれ共主葉脈及葉脈の附近は紫褐色を帶ぶ、長さ9—19 c.m. 幅4—9 c.m. 葉柄は稍々多肉にして紫褐色を呈し、長さ平均1.5 c.m. なり。花序は無枝、總狀花序にして多くは數本宛短枝より叢生す、充分伸長したるものは10—13 c.m.に至る。花は概ね2—4 m.m.の間隔を以て花軸に着生す、花は開けば徑2.5 m.m.なり、花の各器關は螺旋狀に配列す、鱗片狀の二つの苞を有し、花梗は甚短く殆無柄なり。萼片は鱗片狀にして總數十個あり、長さ1 m.m. 幅約0.7 m.m. 卵形にして裏面に毛を生ず。花冠は全長の $\frac{3}{5}$ は五瓣に分れ其瓣は覆瓦狀に配列し、長さ1.5 m.m. 縁邊は圓滑なり、下方の $\frac{2}{5}$ は合着せり、黄土色にして不明瞭なる褐色の脈あり、裏面に少しく絨毛あり。雄蕊は五本、花瓣と對生し、花瓣の下部に着生す、全長約0.8 m.m. 花絲は葯の裏の中央より出づ。雌蕊は五心皮より成り合着し、花柱は合一

し太く短し、花後萼は次第に膨大し、子房壁と癒合し、其縁邊に萼片と花冠と殘存せり。果實は(余の得しものは稍々未熟なりしが如し)高さ 3.5 m.m. 徑 3.5 m.m. なり。

Truk 島彙の内 Eten (竹島) の叢林中に自生す。

Maesa sp.

まるばいづせんりやう(新稱)

灌木、莖纖弱、葉莖共に無毛、若き莖、葉柄、主なる葉脈等は紫褐色を呈す、莖には淡褐色の小き皮目多數散在す。葉は廣橢圓形、葉頂鈍尖或は圓く、葉脚は圓く唯葉柄に接する所左右喰ひ違ひ、少しく葉柄に移り續く傾向あり、葉邊は全縁なり、平滑にして光澤あり、表面深綠色、主葉脈の附近に紫褐色の暈あり、長さ 3—4.5 c.m. なり。花序は無枝の總狀花序(稀に基部に近く一—二の枝を出すものあり)にして葉腋より一本宛出づ、長さ 5 c.m. 一本の花軸に二十五個内外の花を着生す、花梗は約 1 m.m. 花梗の基脚に瓜狀の微小なる苞葉あり、花梗と花と接する所に厚くして形圓く端鈍尖せる二枚の苞あり。萼筒は膨れて圓く囊狀を成す、萼片は五個覆瓦狀に配列し、萼筒の上冠す、花柱は合一し、太く短く、柱頭は僅に五裂して開く、子房内には多數の種あり。

余の得たる標本は花は既に盛を過ぎ花冠雄蕊共に脱落せるものなりき。

Palau 島鬱林中に自生す。

SAPOTACEAE. あかこつ科

Sideroxylon ferrugineum; Hook. et Arn.; Hook. F. Bot.

7; Hay. G. I. 4.

IV. Abt. I. 144.

あかこつ殘性にし

よりなれる小片狀に配に

Palau 島彙の内 Gonotes 島及び其附近に基

臨める崖壁に多く産す。但し余が従

のに比して枝葉の状態多少異なるを認む、暫く記して疑を存す。或は *S. elongatum*,

Voikens. ならんか。

Sideroxylon sp.

喬木、常緑葉は互生、楕圓形、葉頂は鈍尖、葉脚は圓く或は少しく鈍尖す、葉邊は全縁なり、長さ 13—19 c.m. 幅 7—9.5 c.m. なり、革質にして、稍々堅く、両面平滑、表面暗濃綠色にして裏面は比較的色淡し、側脈は中肋と大なる角度を爲し、二〇—三〇對、平行して走る、但し側脈は細くして餘り明瞭ならず、中肋は裏面に隆起し、表面に於て凹む、葉柄は長さ 2—3 c.m. なり、芽よりは粘液を分泌す。花は枝端の葉腋より一—三個宛出づ。萼片は三箇宛、二輪 (*Whirls*) に配列す、下部は合着して少しく膨れたる短き萼筒と成る、外輪に在る萼片は長さ 15 m.m. 幅は最廣き所にて 5 m.m. 質稍々厚くして外面に灰褐色の絨毛を被る、少しく覆瓦狀を成す、内輪のものは外輪のものに比して狭く、且質薄く、中肋明かに表はる長さ 15 m.m. 幅 3 m.m. なり。花弁は五個、長さ 18 m.m. 幅 4 m.m. 披針狀にして淡褐色を呈す。花弁の間には小舌狀の假雄藥あり。雄藥は五本、各花弁の基部より抽出す、屢々一—二發育不完全のものあり、全長 13 m.m. 葯は披針狀にして長さ 5 m.m. 花絲は 10 m.m. 葯は内向、花絲は葯の裏面中央に接着す。子房は略々圓錐形、外面に毛を生じ、花柱は長く抽出し、柱頭は小點に終る。果實は楕圓形、長さ 5 c.m. 徑 3 c.m. 果頂に花柱の遺跡ありて長さ約 5 m.m. の突起と成る、果底には萼片宿存せり、外皮灰

褐色にして稍粗糲なり、果肉は黄褐にして軟く、内に一個の種子あり、楕圓形を呈す。種皮は褐色平滑にして光澤あり、一方の側面に黒色長楕圓の淺き窪みあり、果梗は堅固にして長さ 3 c.m. 餘あり。

Ponape 島の海岸より遠からざる林野に多く自生す、此植物の樹液、果實等は多少經濟的價值あるものと思惟す。

(以下續出)